

平成24年4月2日

聴取結果書

東京電力福島原子力発電所における事故調査・検証委員会事務局

局員 仁保智紀

平成24年3月25日、東京電力福島原子力発電所における事故調査・検証のため、関係者から聴取した結果は、下記のとおりである。

記

第1 被聴取者、聴取日時、聴取場所、聴取者等

1 被聴取者

経済産業大臣 枝野 幸男（事故当時は内閣官房長官）

2 聴取日時

平成24年3月25日午後2時00分から同日午後6時00分まで

3 聴取場所

枝野議員事務所（衆議院第一議員会館804号室）

4 聴取者

柳田委員長代理、高野委員、高嶋参事官、加藤参事官補佐、
飯崎参事官補佐、三田主査、仁保主査

5 ICレコーダーによる録音の有無等

あり

なし

第2 聴取内容

事故対応全般について

第3 特記事項

■下線部については、先方から、特に強い非開示の要望があった。

■本文において①～⑥として言及される避難指示は以下のとおり。

①1Fから半径3km圏内の避難指示（3/11 21:23）

②1Fから半径10km圏内の避難の指示（3/12 5:44）

③2Fから半径3km圏内の避難の指示（3/12 7:45）

④2Fから半径10km圏内の避難の指示（3/12 17:39）

⑤1Fから半径20km圏内の避難の指示（3/12 18:25）

⑥1Fから半径20～30km圏内の屋内退避の指示（3/15 11:00）

以上

【取扱い厳重注意】

○質問者 あらかじめ質問事項を送らせていただいておりますので、1番目の初動対応等についてというところからお聞きしたいんですが、2以下は各論的な話でして、初動対応は、我々もいろいろヒアリングで聞いているところなのですが、どうしても外に見えない部分で、大臣しかわからない部分もあると思いますので、ざっと11日～15日ぐらいまでの経過を簡単に、どこにいらっしやっただとか、どういうことがあったという流れを教えてくださいなと思います。

○枝野前官房長官 個別に聞かれるということではなくてね。

○質問者 はい。

○枝野前官房長官 わかりました。

まず、私は余り記憶力がよくないので、正直に言って詳細な時刻あるいは順番とかも、余り自信がないところがたくさんあります。自信がないところは自信がないと言いますし、自信があるところは自信があると言います。

まず初日で、緊急事態宣言の発出ということで質問事項をいただいているんですが、私自身が原発の方がメインだなと思ったこと自体、あえて言えば、12日の未明でベントができてないというのでたたき起こされたときかなと思っていて、実は11日の緊急事態宣言発出のプロセスとかということの記憶は余りありません。勿論出していることはわかっていて、全閣僚に準ずるぐらいのメンバーで原災本部を開催した記憶はありますが、当時そこに余りコミットしていた記憶は余りありません。

それから、民間事故調とか政府事故調のものもそうだったかな。初日の、例えば地下の危機管理センターの中2階のミーティングとか、多分私は入ってなかったのではないかなと思うんです。最初に行ったのが12日の未明の朝、ベントができてないと起こされたからではなかったか。これは正確な記憶ではないですが、少なくともそれより前の段階のときは印象がありません。

逆に言うと、12日の未明、多分5時とか6時ぐらい、総理が出発する直前ぐらいのところで中2階に行ったときに、本当に全く電話が通じないんだとか、
話をした明確な記憶がありますので、まさに公表されている事態をたどるぐらいの記憶と認識が正直なところですよ。

むしろ初日は、例えば16時台とか、私は帰宅難民対策をやっていました。むしろ地下の危機管理センターで、国土交通省にどうなっているんだとどなっていました。いつになったら鉄道が動くのか、動かないのか、情報を早く集めろと言ってやっていたし、たまたまJRの社長と電話がつながって無理だと聞いたので、すぐに記者会見をやって、帰らないでくれとやったのが15時半ぐらいだと思います。

勿論、危機管理センターにいましたから、両方で大変なことが起こっているというのは認識していましたが、あえて言えば、地震・津波は平野さんで、原発は海江田さんという所管大臣がいましたから、官房長官としては常に全体を見てなければいけないという意識だったので、個別のことについての強い印象は余りありません。

【取扱い厳重注意】

あと、あるとすれば電源車の話でごちゃごちゃしていて、こんなものは余ってもいいから、あらゆるところから全部集めるしかないのではないかみたいな話を、原発関連で集まっているところではなくて、地下の危機管理センターで、危機管理監などと激しくいろいろなことを言っていたのは明確に記憶がありますし、そのプロセスで、着いたのにコードがつかないみたいなばかなことを言っているという話で、何だそれはと言って、保安院のリエゾン、今から考えると平岡次長だったのかな。報告が要領を得ないものばかりで、どうなっているんだというのを2、3度言った記憶があるというのが初日です。

こんな感じで、どんどん時系列的に言っているんですか。

○質問者 はい。

○質問者 御自身でメモをつくるとか、ノートをするとか、そういう習慣はない。

○枝野前官房長官 全くありません。普段からメモをとらない人間だし、普段から余り記憶しないものでいっぱいです。

12日は、ベントは重要なことだから、最終的にベントをやりますと東電と保安院が言ってきて、場所の記憶はありませんが、それを決断するときは、確かに言ったのは間違いなくて、これは主務大臣が役所でやるだけではなくて、官邸でも会見をやった方がいいということになったので、ベントをするということについて私も会見をしました。

最初に深くコミットしたというよりは、3キロの避難の時だったと思いますが、3キロの避難をせざるを得ない状態、多分、冷却停止が原因だったと思いますが、これは単なる経産省、保安院の問題ではないね、官邸からも会見しなければいけないねということで会見をして、ベントするということ。

ただ、主体はだれなんだという話になって、主体は東電ですと。東電について了解するのは保安院ですと。では、海江田さんが先にやって、5分遅れで官邸がやりましょうというのは非常に記憶に残っていて、保安院での海江田さんの会見が始まったのを確認して、私の会見をスタートさせました。

これでベントがされて、電源車が次々に着いているんだから、電源が確保されれば原発の方はこれで何とか収まるなというのが、そのときの正直な私の思いでした。

ところが、朝、正確な時間はわかっていませんが、官房長官の執務室で、あのときはまだソファーでもなかったと思います。普通のデスクのいすで、うとうとしていたら福山さんか、秘書官か、ただ、すぐに福山さんが入ってきて、まだベントができてないと。何だそれ、何が起きているんだという話で、それで初めてか、少なくとも明確に記憶をしている意味では初めて地下の中2階のところに行ったら、海江田さんと、今、思うとだれだったんだろう。武藤さんか。とかがいて、海江田さんが東電に対して、何でできないという話をして、幾ら聞いてもらちが明かないんだというやりとりがあったということです。

総理が行って、この質問事項のメモで言うと、12日の1号機の爆発時ですが、たしか1号機の爆発のときは党首会談か何かだったのかな。

○質問者 そうです。

【取扱い厳重注意】

○枝野前官房長官 党首会談は、平時なら官房長官は陪席ですが、私は多分陪席してなかったのかな。そこは記憶が明確でないんですが、多分してないのではないかと思います。党首会談で陪席をしていた記憶はそんなにない。

○質問者 中村秘書官が入っていたという話。

○枝野前官房長官 入っていたということは、私は入っているな。

○質問者 外にいたと。

○質問者 外にいたという話。何か、いたかのような話。

○質問者 4階で行われています。

○質問者 4階ですね。

そうすると、爆発を最初に認識されたのはどこにいらっしやったときかという記憶はありますか。

○枝野前官房長官 少なくとも1号機の爆発問題のことに関する記憶は、ほとんど地下の危機管理センター。地下の危機管理センターで、
どこからも何も情報が入ってこないというので、さすがにいらついて、どうなっているんだと。

たしか警察からは、最初に爆発か、爆発に類するような情報が入り、それが取り消されなんていうのがプロセスであったと。それで何なんだという話を、地下で伊藤さんなんかとやりとりをした記憶は明確に鮮明にあるんです。

あと、これについて明確な記憶があるのは、定例の記者会見。あの期間は基本的に定例どころではないんですが、基本的には10時台と4時台というのが官房長官の定例会見で、夕方4時台ができてなくて、情報が集まったらやらなければと言いながら全く情報がない中で、さすがにこれ以上引っ張ったらやばいねという話を福山さんとして、かといって、あの映像以外に何もわからない状態で。

あと一つわかっていたのは、多分サイトの境界線の線量の情報だけはその後も定期的に入ってきていて、これがべらぼうに変な数字にならずに、むしろ下がったのかな。一瞬上がって下がったぐらいの数字だったので、要するに、チェルノブイリ型の爆発みたいなことではあり得ない話だねと。

では、もうとにかくこの2つの情報だけで、とにかく政府もあの映像は見ています、一生懸命に情報収集をしていますという姿勢だけでも示さなければまずいのではないかとということで記者会見をしたという状況ですね。

それから、海水注入はちょうど私の記者会見のときです。どこかの新聞が書いて、その後、国会で問題になった、勝手にそんたくしてとめてしまったみたいな話のやりとりは、ほとんどわかりません。少なくとも私自身は、東電がそんたくをしたと思われる6時台ぐらいの会合には出てなかったか、出ていたとしても、会見が終わって、総理のところ集まって何かをやっているというので最後に飛び込んだぐらいだと思うので、少なくとも強い印象というか、記憶は残っていません。

【取扱い厳重注意】

○質問者 当時の時系列に照らしますと、午後の記者会見が17時47分～18時20分です。ちょうどこの記者会見の最中に、海水注水の話が始まっていたと我々は聞いておりまして、最終的に海水注入しようとするのは、7時半に再開した会議。それが30分ぐらいにあったようですけれども、中断の後、最後はそこで決まるんです。時間的には長官が入れる時間帯にはなってきたはいるんですけども、記憶としてはいかがでしょうか。

○枝野前官房長官 記憶に残っているのは、海水注水の話は、いつからかは別としてある段階から、真水がなかったら海水を入れるしかないねと。それに対して東電が、それだと使えなくなるから嫌だとか、そういったネガティブな話はなかったと。確かにどこかで水を入れたら再臨界のリスクがあるから、ホウ酸かな、ホウ素かな、一緒に入れなければならないという話があったことは記憶にあります。

○質問者 わかりました。

後半の、最後に入れましょうという話が決まったところの記憶も余りはっきりしない。

○枝野前官房長官 そうですね。

○質問者 ましてや場所がどこだったかというのもないですね。

○枝野前官房長官 全くないですね。

○質問者 その辺りで、■■■■さんとか、そういう専門の方が同席したり、何か口を出したりということはなかったですか。

○枝野前官房長官 本当に次々といろいろなことが起こっていて、なおかつ、私はこの間に津波対応もやっていたので、どの場でどの話をしていたのか、明確なところもあるんですが、ほとんどのところは、ここでこれを行っているから官房長官も入っていてくれとか、そんな話で入って、自分がそこで問題意識を持って発言したりしたのは勿論記憶にあるんですが、海水注水の話は異論なくというか、スムーズにというか、すっと行った記憶と、再臨界をとめるにはホウ酸が役に立つんだという新しい知識だったので、その話だけが残っているだけです。

○質問者 3月12日の未明に、原発がメインの話になりましたけれども、客観的には11日に冷却の問題が起きてきて15条発生とか、客観的にはかなりシビアな状況が来ているんですけども、当時長官としては、そんなにシビアな状況だという情報とか認識というのは余りなかったんですか。

○枝野前官房長官 何をもってシビアと言うべきかなんですが、原発の電源がとまったこと自体が、過去の日本の原発の歴史から比べれば大変なことであるのは、さすがに私もわかっていましたし、まして冷却がとまったというのは、とまったままで継続したら大変なことになるというのは、勿論わかっていました。

ただ、少なくとも11日の間の危機管理センターとか官房長官室に来ている情報は、冷却がとまってしまったけれども、回復の努力をしているので回復できそうだと、つまりポジティブな情報なんです。にもかかわらず、電源車が着きながら、なぜか電源が繋がらない。なぜなのかもよくわからない状態が続き、コードが合わないとかという初歩的な話が

【取扱い厳重注意】

出てきて、だんだん大丈夫かというのは認識をしていきましたが、ベントをして圧力を抜けば爆発しないということで、だからベントをやらせてくれと。その判断は大変な判断だった。つまり放射線物質を意図的に外に出すと。だけれども、爆発させてしまったら大変なことになるんだから、それはしようがないねと。

それを東電はすぐにできるという認識で、多分東電は外に向かっても明言しているのではないですか。海江田さんが3時にやった会見か何かのときに、東電なのか、保安院なのか、やればすぐにできますみたいなことを言っていたというのは記憶がありますので、それができれば少なくとも爆発はしないんだなということだったので、おいおい電源車も着き、電源が回復されて、爆発しそうなことについてはベントで圧力が抜ければ冷却も回復するんだなというのが、3時の会見ぐらいまでの認識でしたね。

○質問者 専門家の、例えば保安院の次長の平岡さんなどからお聞きすると、長官が今後プラントはどうなるんだという質問をされているような場面もあるように聞いているんです。

○枝野前官房長官 私が、11日に。

○質問者 班目さんとか。

○枝野前官房長官 そんな場面自体があったかな。

平岡さんなら危機管理センターで、電源車を何台集めればいいのか、何でつながらないんだとか、電源車だけでいいのかとか、そういう話は危機管理センターの大きなテーブルで、各省も全部がいるところでやりとりして。でも、あの人は幾ら言ってもらちが明かないのはすぐにわかったので、あの人は、急げ急げとだけはいろいろなことを言いましたけれども、とにかく聞いてもしようがないから。

勿論、このままで大丈夫なのかという話はしてないわけではないです。当時、私が全く原子力の素人でも、冷却ができなかったら爆発したり大変なことになるのではないか、大丈夫かみたいなことは言ったと思いますが、細かく詰めた記憶はないですね。

○質問者 先ほど話の流れの中で、3キロメートルの避難の話がございましたけれども、3キロメートルの避難は11日の9時20分ごろに出ておりまして、それに先立って実質的な検討があったと思われるんですが、長官はその中に入られていましたか。

○枝野前官房長官 記憶がないです。発表しているのが私なので、入ってないとおかしいとは思いますが。自分が入らないところで決まったことの発表だけをしてくれという話は、基本的にあり得ないので入っていたのは間違いないと思いますが、余り記憶がないということは、特段議論がなかったと思います。つまり冷却がとまって15条ということは、そのままの状態が続けば、放射能漏れであったり最悪は爆発だということは、専門家でもすぐにわかりましたから避難をしなければならない。

そのときは経産大臣でなかったので知りませんでした。3.11以前のマニュアルでも、そういった場合はまず3キロを逃がしておくということが基本だったみたいですから、そういう話に基づいて流れの中で決まったんだと思います。

【取扱い厳重注意】

○質問者 ちょっと話を戻っていただきまして、再臨界の話はどうか。

○枝野前官房長官 再臨界のリスクがあるからホウ酸を入れなければいけないという話は、どこかで出たのは間違いないです。ただ、それが12日の夕方の話なのか、それより前の話なのかはちょっと記憶がないです。

これだと14日の3号機爆発なんですけど、3号機爆発は会見中にメモが入ってきたんです。だから、これは鮮明です。会見をしていたら、3号機で煙が上がっているという情報がありますがと記者から聞かれて、その時点で把握してなかったら、秘書官の方々がメモを入れてくれて、申し訳ないけれども事実を確認するのでと記者に言って、記者会見を一旦やめて、同じような状況なので今度は水素爆発だと。周辺線量の情報だけをとって、水素爆発と思われるということで、ここは結構早めに会見、発表ができたと思っています。

○質問者 3号機の水素爆発は14日の10時ごろなんですけど、この前日の日曜日から月曜日にかけて、計画停電の関係の調整で非常に忙しい状態でいらっしゃったと聞いておりました。14日の朝の5時56分の記者会見のときに、計画停電の話をずっとされている。このときに、実は1Fでは3号機が非常に危ない状態というか、不安定な状態になってきて、ドライウエルの圧力も上がってきていて、どうしたものかという話なんですけれども、14日の朝に、そういう情報に接した御記憶はないですね。

○枝野前官房長官 情報に接していれば、会見で言っていると思います。

○質問者 ないんです。朝5時、6時の記者会見の後、11時直前の10時56分に始まる記者会見の間は何もなかったですね。

○枝野前官房長官 その10時56分で言ってなければ、多分ないと思います。爆発の直前、つまり爆発と同時並行の会見でそういう情報があれば、そこで言っていると思います。

○質問者 10時56分では、危ない状態になって一度退避したけれども、その後にもまた戻りましたというところまでを話している。

○枝野前官房長官 それを言っているわけですか。

○質問者 その最中に爆発が起きている。

○枝野前官房長官 ということは圧力が高まって、近くにいたらまずいから一旦引いて、戻ったという情報の限りであったということではないですか。

○質問者 わかりました。

長官としては、この直前の発表前に情報が入ったということなんでしょうね。

○枝野前官房長官 明確な記憶ではないんですが、一旦圧力が高まって、重要免震棟か何かに逃げたんでしょうね。戻ったということは圧力が下がったのかな。

○質問者 若干。

○枝野前官房長官 というやりとりがあれば、ファクト自体はそろそろ入っているのではないですか。その会見で言っているということは、会見の直前になって、4時間も5時間も前にこんなことがありましたということの報告だったら、その時点でまた、何をやっているんだ、早く言えと言っていたと思います。

【取扱い厳重注意】

○質問者 当時の長官の記者会見内容を見ますと、朝の早い時間帯に圧力が上がって、一時退避したんだと。この会見に来る直前にもう一度確認したら、その退避は既に解除されていたことを確認いたしましたという発表になっていました。

○枝野前官房長官 だから、退避したことについてはまさに早い段階で入っていたんでしょうね。戻りましたという話は、あれはどうなっているんだと。つまり、悪いファクトは早く入れろという話でしたけれども、戻りましたという話は、その後どうなっているんだと直前に聞いています。その会見のとおりだと思います。

○質問者 わかりました。

11時の爆発で、記者会見を中断したということですね。

○枝野前官房長官 はい。

2つの爆発が重要なファクトとして出ているんですが、後から思うと、住民被害というか、環境被害が一番大きかったのは2号機のサブプレッションプールではないですか。放射線量は一番出たのはあのときではないかと私は勝手に思い込んでいたんですけども、違うんですか。

○質問者 まず15日の午前中に大きく上がって、15日の23時ごろ、夜に更にもっと大きく上がっているという2つの山が15日にあって、それが2号機である可能性も当然ありますし、3号機についても更に炉心の損傷が進んで、FPが出ていったという可能性もあって。

○枝野前官房長官 それはどっちかがわからないわけですか。

○質問者 はい。

○枝野前官房長官 1や3の爆発のときは、上がったのはそんなに大きくなかったですね。勿論そのときはわかりませんでしたけれども、その後、2のサブプレッションプールの破損のときの上がり方が大きい。だから、ここなかなという問題意識の割には世の中が余り注目してなくて、何でなかと思っているんです。3の可能性もあるわけですね。爆発的な特別の事件があったわけではないけれども、じわじわと出ていったものがどっと出た。

○質問者 はい。

○質問者 恐らくその疑問は、爆発の直後は1、3とも線量が下がっている。まだ爆発かどうかは確認できてないんですけども、2号機の爆発的な音の事象の後には、線量が上がっているという問題ですね。

○枝野前官房長官 そういう問題意識と、結局一番高かったのは15日であること。15日が圧倒的に高いみたいですね。

だから、自分の反省からも、あの15日のサブプレッションプールの破損については、重大ではあるんだけど、その時点では水素爆発と比べれば、相対的には重要度が低いと思っていましたので、あのときにもっと認識すべきだったかなという反省はあります。

○質問者 ただ、ベントは1～3ともずっと継続的にやっているから、炉心の状況に応じて。

○枝野前官房長官 そこから出る量が、どんどん増えていることはあり得るわけですね。

【取扱い厳重注意】

○質問者 1、3であってもですね。

○枝野前官房長官 はい。

オフサイトセンターのことは、結果だけ報告されているというか、ほとんど知りません。ここはまさに経産大臣の所掌範囲のところなので、海江田さんとか、当時の保安院関係者の話では、一般論として、あんなところであって何の対策もとれてないところではというか、最初から電気も落ちているわ、何も落ちているわで、池田副大臣には行ってもらいましたけれども、役に立たないねというのは11日ぐらいのうちから。

どこかから説明を受けたわけではないですけれども、どうせ役に立たないというのは直感的に思っていましたので、その後、正直に言って、ここについての関心は余りなかったです。

これこそアンダーラインを引いておいていただきたいんですが、ここが機能するんだと思ったら それこそ細野補佐官を行かせるとか、寺田補佐官を行かせるとか、福山副長官を行かせるとか。ここは機能しないと思っていたけれども、法律上はだれかを行かさなければいけない ということなので、池田さんに行ってもらったというのが正直なところです。ここはアンダーラインをお願いします。

○質問者 わかりました。

一つだけ、ちょっと変な話といたしますか、お化けのような話がありまして、14日～15日にかけて、オフサイトセンターは福島の方に移転するんですが、14日の夜の当時、オフサイトセンターに現地対策本部の副本部長として行かれていた保安院の黒木審議官が、オフサイトセンターにいたら電話がかかってきて、枝野ですと。

○枝野前官房長官 あり得ないですね。

○質問者 内容は、準備は進んでいますかという話でした。

○質問者 いつでも移転をできるように、準備は進めておいてくださいと。

○質問者 枝野と名乗ったんですと。でも、どうして俺にかかってくるんだろうと。

○枝野前官房長官 それはあり得ないですし、その時点では黒木さんという人自体を知らないです。まず、黒木さん指名ができないですね。その時点では平岡さんとか、そのクラスでも顔と名前を知りませんでした。

○質問者 そうなんです。本人もキツネにつままれたような。

○枝野前官房長官 申し訳ないですけれども、オフサイトセンターは、勿論機能できる部分は機能してもらえばいいと思っていましたけれども、それこそ、それは経産省、保安院でやっている話だという受けとめで、むしろ県庁に移ってからのほうが、福島のメディアに対する窓口としてちゃんと機能させなければいけないなど、むしろそのときから関心を持ったという感じですよ。

○質問者 わかりました。

14日。

【取扱い厳重注意】

○枝野前官房長官 撤退問題ですね。

○質問者 撤退問題と統合対策本部の設置です。

○枝野前官房長官 時系列というか、何時何分というのは、正直なところ記憶がなかなかないんですが、いずれにしろ夜です。夜に呼ばれて、この日の夜は総理応接室です。総理執務室の隣で、本当は禁煙なんだけれども、海江田さんと私がいたのもくもく状態で、後から総理を入れて、いわゆる通称御前会議というときの前に、灰皿を全部片付けてという明確な記憶がありますから間違いないですが、何時ごろに呼ばれたのか。あのときはテレビをつけてもいつも原発のニュースだし、執務室にいるときも、危機管理センターにも流れていますから全部テレビの映像は流れているんですが、まさに時間感覚は全くなしなので。ただ、夜なのは間違いないですが、撤退問題で呼ばれたのか、それともこの日の夜は2号機が危なくなったのかな。それこそ2号機の圧力が高まって、ベントもできず、水も入らずという状態で大変だという状況だったのか。

これはほかの人に聞いてもらえばと思うんですが、海江田さんも大変だし、総理も大変だけれども、とにかく枝野はできるだけ休ませろと周りが気を使ってくれていて、とにかく大事なところ以外は執務室においておけば、うとうとでもするだろうからと執務室においておいてもらっている状態だったんですが、呼ばれたんです。

どっちだったかな。2号機のリスクの問題だったのではないかな。自信はないです。そこで東電が撤退の話をしているみたいな話もどこかで出てきて、そうしたら私あてにも清水社長から電話がかかってきて、私にも同じ趣旨のことをおっしゃった。私は菅さんほど腹が据わってなかったんで、そんなものがあり得るかとは言えずに、趣旨として、私の一存で、はいと言える話ではありませんということで電話を切った。

私の記憶では、海江田さんのところにも来ていたのは間違いないです。あと、細野君のところにも来ていたと思います。

○質問者 生の言葉で、御記憶ではどういう言い方だったんですか。

○枝野前官房長官 生の言葉は、この件に限らず余り正確な記憶をしてないので。いい加減なことを言うてはいけないと思うので。ただ、間違いなく全面撤退の趣旨だったと、これは自信があります。

そもそも、そうでなかったら私に電話してきません。清水社長はこの原発事故のいきさつの中で、何日か後に初めて総理のところにお詫びに来ましたね。

○質問者 13日です。

○枝野前官房長官 そのときに私の部屋にも寄った。それから、私が何かで怒って電話したのがあったんです。

○質問者 停電の関係。

○枝野前官房長官 かな。何かに怒って、こっちから電話したことがあるんですよ。ですが、計画停電のときは、こっちも社長でなかったような気がするな。基本的に、あの社長が私に電話をかけてくるのは特別なことなんですよ。

【取扱い厳重注意】

それから、ほかの必要のない人は逃げますという話は、別に官房長官に上げるような話ではないですから、わざわざそんなことで私にかけてくることは考えられないですし、みんな別々に電話を受けていますから、勘違いとかはあり得ないですね。

東京電力に対して善意でとらえれば、事柄の性格として、東京電力の中でも共有されていたオファーだったのではないだろうと思います。少なくともその時点では、こっちもさすがに東電が逃げようとしているなんていう話は言えないねという話だったので、その応接室メンバー限りにはしていましたから、東電の側も社長、会長限りぐらいの話だったのではないかと思います。

だから、あのときの全体のやりとりの中では、だれかリエゾンはいたはずですが、14日の夜のやりとりの中では、応接室、その周辺にも東電のリエゾンはいたはずですが、その人たちも社長から何かを言われていたわけではないと思います。

菅さんのキャラクターについては皆さんも、いいところも悪いところも、既に十分取材をされていると思いますが、さすがに私も、受け取りの勘違いで菅直人さんを起こすような腹は据わっていません。

○質問者 時間的な流れの中で、どこら辺なのかなということをお聞きしたいんですが、確かにいろいろな方にお話を聞きますと、14日の夜7時、8時ごろに

将来の撤退の可能性を電話した事実は

に電話したかどうかについては、はっきりしないらしいんですが、この時間帯は炉がすごく不安定な状態にありましたから、将来的に撤退も考えているんだということを電話したことはあるようです。

今度は後ろの方へ行きますと、総理をを起こして東電の撤退問題について議論をされたのが午前3時を回っている時間だったと思われます。この流れの中で、枝野長官が起こされて話に加わったのは、結構長い時間。

○枝野前官房長官 逆算をしていくしかないんですが、菅さんを含んだ会議をやったのが3時ぐらいですか。

○質問者 3時を過ぎていると思います。

○枝野前官房長官 そうすると、起こしてそういう会議をしようと思ったのが、多分2時とか2時過ぎだと思います。当時は藤井さんがまだ副長官だったと思いますし、松本龍さんも、大事過ぎる話ということでその辺も呼びましたので、若干時間がかかったのですが、1時間はかかってないと思います。30分後とかそれぐらいでセットしたと思いますので、総理を起こす判断をしたのが2時～2時過ぎぐらいだと思います。相当何やかんやとやっていたんですが、7時からずっとやっていたという状況では全くないです。0時前後だと思います。早くても10時とか11時ぐらいからだったと思います。

一番間違いないのは、通信記録を見てもらえばいいと思うんです。だれかが吉田さんと話しています。私も話しています。つまり社長がこんなことを言っているけれども、どうなんだという話は、間違いなく吉田さんと話しています。私は、清水社長と話したことも

【取扱い厳重注意】

数少ないので明確に覚えています。私自身は、実は吉田所長とほとんど話していません。ここは私自身も吉田所長と話しました。だれかの電話で吉田所長に電話をして、これは大事なことから官房長官も直接話してくださいと。

あえて言えば、確かにあの日の夜は吉田所長も若干弱気でしたので、趣旨として、あなたの肩にかかっているんだから頑張ってくれみたいなことで、激励してくれみたいなことがあったので話しています。多分それが0時とか1時とか、それぐらいだったと思うんです。

その時点の官邸に入った情報では、不安定というか、危ない状況だったと思います。その電話で私が直接したというよりは、私に電話を渡した人間は細野だと思うんですが、現地と直接話して、なかなか水が入らない、圧力が下がらないということで大変だみたいな話のやりとりでした。というのが、多分0時とか1時です。

推測ですけれども、保安院長とか海江田さんが夜7時ぐらいだったとすれば、海江田さんが何とおっしゃっているのかはわかりませんが、海江田さんにあった全面撤退の話はもう一回あったのではないですか。そのことをとらまえて海江田さんが言っていたのではなくて、その後にあったのではないかと思います。

○質問者 複数回とはおっしゃっているんですけれども、時間がはっきりしないんです。
○枝野前官房長官 正直なところ、ましてや夜なんかになると、今が何時なのかと全く感覚のない数日間が続いていましたので。多分、逆算するとそういうことになる。明確ではないですが、起こされたという記憶はあるんです。そうはいつても、昼間の時間帯にうとうとすることは非常に少ないので。

○質問者 わかりました。

今の話の中で、吉田所長と直接話をされたという話が出ていまして、3月15日の5時39分、まさにこれは、今、統合対策本部ができ上がりました、今、東電の方に行きましたと枝野長官が話されている記者会見の中で、「この1時間ぐらい前のタイミングで、私と同席しております、これは具体的には海江田大臣だったでしょうか、細野補佐官だったでしょうか、現地の吉田所長と直接連絡をとらせていただいておりますが」。

○枝野前官房長官 この記憶と同じ記憶ですね。

○質問者 「その時点での認識は、そもそも、水位計そのものが機能してない」云々という話があって、水が不安定にしか入っていないという話。

○枝野前官房長官 この発言と、今の記憶は同じ記憶です。1時間前というのは、現時点の1時間前ではないと思います。

○質問者 そうすると、これは判断する1時間前という趣旨なんですね。

○枝野前官房長官 そうだと思います。

○質問者 会見の1時間前では、ちょっと遅過ぎますね。

○枝野前官房長官 この1時間前は、やれている状況ではないですから。

○質問者 わかりました。

【取扱い厳重注意】

○質問者 3月11日～15日までで、多分ほとんど寝ておられないような状況だったと思うんですけども、ざっと言うと、3月11日に始まってからどんな1日を過ごされていたんですか。睡眠なんかはどういうように。

○枝野前官房長官 横長のソファがありますので、その期間はずっと官房長官室のソファです。ただ、最初の晩はそこにちゃんと枕を置いて寝るような状況ではなかったですし、後で出てくるでしょうけれども、基本的にはアメリカとの関係とかで夜中にたたき起こされたり、長くて2時間ぐらいの断続的の感じだったと思います。

○質問者 それが15日ごろまで。

○枝野前官房長官 もっとでしょうね。

○質問者 もっとですか。

○枝野前官房長官 16～17、最初の土曜日、日曜日。最初に公邸に行ったのが何曜日だったかな。1週間ぐらいはそんな感じですよ。

寝たと感じたのは、1週間目前後のところで官房長官公邸に。まず総理が先に公邸に行けと言ったのに彼は最後まで抵抗して、しようがないので、二人が共倒れになったらいけないと周りから言われたので、まず官房長官が官房長官公邸に行けと言われて、私の方が先で1日早かったと思いますが、そのときに初めて寝たという感じでした。

○質問者 それは何日ですか。

○枝野前官房長官 記者会見に残っていると思います。

○質問者 記者会見に出ていますね。寝てらっしゃるんでしょうかという質問をされていた。

○枝野前官房長官 官房長官公邸に戻ったのは、たしか報道も出ていたと思います。

○質問者 今の最後のところで、3月14日の22時かそこら以降のお話ということで、東電の撤退問題に関してなんですが、もともと2号機のリスク、2号機が危ないということで、官房長官執務室の方でうとうとされているときに起こされたということと、清水社長からの電話というのは、時系列的にはどちらが先に。

○枝野前官房長官 清水社長の電話はずっと後です。

○質問者 その方がもっと後になる。

○枝野前官房長官 ずっと後です。

○質問者 そうすると、まず起こされて、いろいろな方々とおられる場所に電話がかかってきた。

○枝野前官房長官 そうです。これが内線を回されたのか、だれかの携帯を渡されたのか、ちょっと記憶がないです。私の携帯は知らないし、携帯にはかかってこない。多分内線ではないかと思うんです。

○質問者 吉田所長への電話というのは、更にその後に。

○枝野前官房長官 その後です。

○質問者 起こされた後に応接室の方で話をされていたということですけども、それは

【取扱い厳重注意】

ずっと継続的に話があって、総理を起こそうという話になって。

○枝野前官房長官 それは撤退の問題と、2号機の危ない状態と両方が同時並行。

○質問者 それで、総理を起こす前に藤井官房副長官とか松本大臣とかを呼ばれて、集まったところで総理を起こしてと、こういう流れになるということですか。

○枝野前官房長官 先に起こしていたと思います。だから、少人数では事前に話していたんです。そんなものはあり得るかという話にはなっていました。

○質問者 集まる前に。

○枝野前官房長官 はい。

○質問者 わかりました。

最後、また総理も応接室に入って話をされたと聞いているんですけども、そのときにたばこを片付けるという話の流れですね。

○枝野前官房長官 はい。

○質問者 最後に応接室で総理も入って話をするときには、東電の方はいらっしゃいましたでしょうか。

○枝野前官房長官 今、自分の直系の部下だからあれですけども、正直に言って、当時は安井さん一人だけが、唯一技術がわかっているまともな人間だということはわかっていたけれども、名前もどこの所属かも私は知らなかった。私はそこも苦手で、人の顔と名前を余り覚えなくて、この人だれだっけということが結構あるんですが、まさにこんなときはどこのだれかは余り関係がないと思って、まともなことを言っているかどうかが大変だったので、今になって思うと、この人が安井さんだという人が、一人技術のことがわかってまともなことを言っているということだけがわかっていました。さすがにそのころには、班目さんは班目という人だとわかっていましたが、あとはほとんど、だれがどこの所属のどういう人なのか自体がわからないです。

○質問者 もし、ここで東電の人がいるのであれば、撤退とは本当なのかという話になりそうなものなんですけれども、なかなかそういうリアルな話はなくて、他方、いつもここに入っていた竹黒さんとか■■■さんというのは、この最後のところに入ってなくて、お一人はホテルの方にシャワーを浴びに行かれていたり、一人は官邸の2階のソファでずっと寝ていたという話もありまして。ただ、入っていたとおっしゃる方もいまして、どんな御記憶かなど。

○枝野前官房長官 少なくとも私はそんな感じなので、所属とか名前とかを余り覚えられないのですが、いればおたくの社長は何をやっているんだ、何を言っているんだという話になっているはずですから、そもそも私が入ったのが10時なのか11時なのか、12時なのかはわかりませんが、その時点からいないんだと思います。

○質問者 細かなことなのかもしれませんが、午前2時ぐらいに伊藤危機管理監に呼ばれて戻っていったところ、東電の人らしい人がいて、撤退なんかはあり得ないだろうと東電の人に向かって言いましたという話をするもんですから、そうするといたのかなど

【取扱い厳重注意】

か、あるいはもしかしたら作業着的なものを着てらっしゃった方がいて。

○枝野前官房長官 東電の防災服は目立ちますね。保安院と安全委員会も目立ちますから、防災服を着ているとどこの所属かはわかります。

○質問者 間違えるということは。

○枝野前官房長官 それは間違えることはないですね。

○質問者 わかりました。

もう一点なんですが、これはある資料からばたばたと抜き書きをしてきたので、余り正確ではないんですけれども、14日～15日にかけての2号機の圧力容器を計測したものがあつたものですから抜き書きしてきました、途中タイプミスはあるかもしれませんが。大体の傾向がわかればいいということで、今日のヒアリング用につくってきたんですが、14日の夕方から色をつけているところの圧力がずっと上がっていて、消防車の水を入れるときの圧力が0.85と言われているようですので、それを超えていたら水が入らない状態ということで、水が入らないところは色をつけているということです。こんなイメージなんですけれども、黒い線は1時間分を黒い線にしております。

ずっと見ていきますと、3月14日から15日の1時10分、12分、このぐらいまでは入ったり入らなかったりというのがあって、その原因はSR弁が開かなかつたり閉じてしまつたりというのがある。その後、1時以降は一応安定して水が入るようになっていっています。

2時45分からは記録がないんですけれども、この間は特にSR弁が云々という話ではないので、多分ずっと入っていたんだろうと思われているんですが、そうしますと、御前会議といいますか、総理応接室で議論されていた時間帯、最後は1時を過ぎて3時ぐらいになっているわけなんですけれども、その時間帯は水が入っていた。

○枝野前官房長官 そういふことですね。

○質問者 吉田所長のヒアリングの中においても、この後はずっと安定して水を入れて、ほっとしていたという話も聞いているところなんですけれども、こういう情報、つまり14日～15日未明にかけては非常に不安定なんですけど、1時を回ったころからは安定してきているという情報が、タイムリーには入ってなかったと思われる。少なくとも入って安定しましたよという情報はいかがでしょうか。

○枝野前官房長官 多分私が吉田さんと電話で話したのは、この0時13分～1時12分の間なのか、その前なんだろうと思うんです。この間、一喜一憂していた記憶があります。

○質問者 この辺りはしているようですね。

○枝野前官房長官 だから、1時12分の後に、今、何とか入っていますという話があつたのかどうかはちょっと記憶がないです。あつたとしてもこういう繰り返しでしたから、本当に入り続けるのか、ほっとする情報が入っていたわけではない。一喜一憂しながらという状況の中で、何が入っていたかまでの記憶はないです。

○質問者 わかりました。

【取扱い厳重注意】

今の11日のからの流れの中で、さかのぼって11日のことについて、もし御記憶を喚起できればということで教えていただきたいんですが、それは11日の緊急事態宣言のことでして、この緊急事態宣言というのは保安院の方が準備をしまして、当初は海江田大臣と寺坂保安院長が総理のところに入って話をされていたようです。この時間帯、長官はちょうど記者会見か何かに入っていたらっしゃって。

○枝野前官房長官 その記憶はないですね。

○質問者 17時と18時に記者会見が入っているんですけども、一方で、海江田大臣と寺坂院長が総理のところに入られて説明を始めるのが17時42分という時間帯でして、その後、党首会談が入るものですから、一旦6時ちょっと過ぎに中断して、5分程度で戻ってこられて再開するんですが、その戻ってこられるまでの間に、総理にいろいろ質問されていた件、例えば緊急事態宣言というのは法律的にどういう構造になっていて、何を立ち上げるんだという法的なスキームについて答えられなかったんで、この総理のいない時間帯に、秘書官も一緒になって調べたという話があります。ここに、枝野官房長官も入られたやに聞いているんですけども、御記憶は。

○枝野前官房長官 どこでやったのか。

○質問者 六法を調べられていた姿をですね。

○枝野前官房長官 この一連の動きの中で、何度か原災法の条文をくれというのは何回かありました。でも、このタイミングの記憶はない。間違いないのは東電に乗り込むとき。東電に乗り込むときに、何か強制的な権限がないのか、根拠法がないのか。ないならいでしょうがないから、原災本部長のすごい強権がありますから、これで読み込むしかないのではないかみたいな話は、法律家としてしました。

法律の読み方で、あと何回かあったのは間違いないですね。事務方が、何項の何条でこう読むのでこうしますということの説明がなく話を持ってこられていて、何をやっているんだ、条文をくれと言ってやったのは何度かありますが、そのタイミングは帰宅難民とかほかのことで、そんな余裕はなかったのではないかな。

○質問者 このときは帰宅難民の話も。

○枝野前官房長官 帰宅難民の会見を5時半ぐらいにやっているんですね。5時半ぐらいの感じでやっていて、その後、帰宅難民でいろいろやっているんです。例えば公共団体の体育館とか、学校の体育館を開けさせろとかという話を地下の危機管理センターから各省に振って、これを全部やってくれと。開いたところを全部集約したら、福山さんがそれを全部記者発表して、報道してもらおうという話をオペレーションしていましたから、そんな余裕はなかったのではないかな。

○質問者 わかりました。

それから、12日未明のことですが、菅総理が12日の朝に1Fに視察に行かれることになる。菅総理が1Fに行きますという話は、12日になって間もない時間帯に言われたと。

○枝野前官房長官 正確な時刻はわかりません。

【取扱い厳重注意】

○質問者 そのときに官房長官として、総理が行くことについてはどういう御意見だったんですか。あるいはそれを総理に言われましたか。

○枝野前官房長官 趣旨として、政治的には絶対にたたかれますねと。彼はもともと政治的なリスクよりも違う判断をすることがよくあるので、一応念のために、彼は結果がよかったとしても、政治的にぼろくそにたたかれるということを目覚めて言っているのかなということだけは、確認しないといけないと思ったので、そのことを確認する問いは出しました。だけれども、それはいろいろなところから報道されているとおりに、これも正確な文言を覚えているわけではないですが、趣旨としては、そんなことを考えている場合ではないかと言って、行くと言うので、その政治的リスクがわかっているならと私は思いました。

○質問者 わかりました。

ちなみに、海江田大臣も視察に行かれるという話でございましたか。

○枝野前官房長官 むしろ、海江田さんは自分で行きたかったのではないですか。そこは明確に直接言われたわけではないけれども、総理でなくて自分が行きたい、あるいはできれば2人で行きたいみたいなニュアンスだったんで、2人そろって抜けられてしまうと。官房長官は、法律上は原発について権限がないですから、2人そろって抜けられる話はないなど。海江田さんの立場として行きたい気持ちはわかるけれども、総理が行きたいと言っているし、それなら総理なんだろうなと私は思いました。だからといって、調整をした記憶はないです。

○質問者 官房長官がとめられたというふうに。

○枝野前官房長官 海江田さんが言っていますか。

○質問者 海江田さんではなくて、福山さんでした。

○枝野前官房長官 福山さんから、海江田さんも行きたがっているみたいな話をされたら、2人そろっていなくなるのは、幾ら何でも無茶だろうとかいう話を福山さんとしたということですね。

○質問者 直接言われたわけではない。

○枝野前官房長官 直接あった記憶はない。

○質問者 言わずもがなの話かもしれませんが、そのときに考えられた政治的リスクというのはどういうこと。

○枝野前官房長官 パフォーマンスだと言われるに決まっています。政治的には絶対にあり得ないです。政治論としては絶対にあり得ないです。こんなところで東京を離れること自体、どんなに結果がよくてもたたかれるのはよくわかっていました。

○質問者 菅総理としては、パフォーマンスを超えた目的を持っていたということですか。

○枝野前官房長官 パフォーマンスとしてやったら絶対にマイナスだということは、彼はさすがにわかっていました。政治的パフォーマンスとしてやるんだったら、むしろマイナス効果の方が大きい、それはわかっていますねという趣旨の念押しをしたわけで、それは

【取扱い厳重注意】

わかっていました。

だけれども、まさにベントができない話まではいっていませんでしたけれども、総理だけではなくて官邸全体が、とにかく情報が入ってこないことにはいらついていたから、こんなものは現地に行って見てくるしかないだろう、だれかが行くしかないだろうと言われてたら、それはそのとおりだと思いますし、行くとすれば菅さんか、海江田さんか、私か、福山さんか、細野君か、これぐらいのところですね。でも、その段階で細野君は、原発担当補佐官という感じまで、ばしっと入り込んでないですね。2日目ぐらいからですね。そうすると上の4人で。菅さんが、どういうことで自分が行きたかったのかは菅さんに聞いてもらうしかないですね。

これも下線ですけれども、私の感覚からあえて言えば織田信長型のリーダーですから、俗に言う桶狭間で、一騎だけで先頭を走っていくタイプのリーダーです。どっちかというとも私も昔はそうだったつもりなんです、菅さんと長年一緒に仕事をしている手前、一応じっとして全体を見る仕事をだれかがそばでしなければいけないと思っていたので、そもそも3.11以前から、この官邸は一種そういう役割分担だったんです。

ということを見ると、まさに菅さんが現地に行って、私が官邸で全体を見ていることが、政治的な評価という意味では絶対にマイナスだけれども、正直その方がものは回るわなと思いました。

○質問者 ポツの最後にあります統合対策本部なんです、先ほど撤退問題について詳しくお聞きしたところなんですけれども、この撤退問題と統合対策本部の設置というのは連続的に進行していくんですが、この2つの間の因果関係といいますか、つまり撤退問題があったから統合対策本部なのか、ほかにも何か要因があるのか。統合対策本部でき上がっていくことになる理由をお聞かせください。

○枝野前官房長官 撤退問題で菅さんを起こしてこんなことになっていると、こんなことはあり得ないではないかという流れの中だから、撤退問題が最後の決め手だと思います。

私は東電に乗り込んでやるんだと聞いたときに、しまったと思いました。もっと早く私が気づかなければいけなかった。私のそのときの印象はそうだったので、菅さんの頭の中ではずっとあって、多分これがきっかけになって、とにかく直接グリップしないと、どこまで行くのかわからないということだったんだと思います。まさにこれは菅さんの心情の問題です。少なくとも私にはそのときに初めて出てきた話ですし、言われた瞬間に私は、もっと早くやるべきだったというのが直感的な反応でした。

○質問者 実質的に見たら、それはむしろ積極的な結論にすべきだと。

○枝野前官房長官 本当に遅かったと思っています。遅かったというのは反省です。

○質問者 あとは法的な詰めが大丈夫かというところで検討された。

○枝野前官房長官 検討というほどではないですけれども、ちょっと六法を見せてという感じで。本部長の権限でやってしまうしかないね、あとは東電が任意でうんと言わないといけないねと、こんな感じで。

【取扱い厳重注意】

○質問者 こういう場合、国際的には事業者が全責任を持って処理をしていくものであって、役所は余り口を出さない方がいいというのが国際的な標準ですね。ただ、東電がめちゃくちゃだという状況の中で、やむを得なかったのかもしれないですけども、その辺りの根本的な在り方がどうあるべきだったかということについては。

○枝野前官房長官 少なくとも実体としての東電に、当事者意識も能力もない。多分それは、今も変わってないんだろうなと思います。

それから、恐らく万が一、日本で似たようなことが起こったときでも、これだけ大きなことが起こったら政府がやらざるを得ないと思います。つまり、それは国民とメディアのニーズだと思います。政治的には、一民間企業が幾ら一生懸命にやっても、政府は何をやっているんだという声には、その局面局面では対応せざるを得ないだろうと思います。

非常に象徴的なのが、12日の未明のベントの会見をしたときに、実は東電の申し出に基づいて保安院も了としたのでベントしますという発表なんです。

これに対して、そのときメディアは批判でしたからね。政府が責任を持ってやらないのは何事だ的なトーンでした。だから、多分日本ではどの制度を仕組んでも、結局政府がやらざるを得ないだろうと思いますし、仕組みとしても、これだけ大きなことになって自衛隊から消防から動かさなければならないとなったら、少なくとも事業者と同等の情報と権限を持ってないと、自衛隊を動かすといってもどうしようもないですね。

国際的に事業者が責任を持つということの意味は、私も今、経産大臣だからもっと調べなければいけないのかもしれないんですが、ちょっと首をかしげたい。つまり各国の政治、社会事情の違いを前提にしっかり整理しないと危ないと思っています。

○質問者 対策本部のメインの目的ですけども、情報が全然入らなくていらいらしたという情報の問題は大きいと思いますが、更に政府が中心になって具体的な、例えば収拾の対策とか、そういうところもこの中でやらなければならないんだという発想ですか。

○枝野前官房長官 必ずしもそんなことはないです。

実際にベントをするのかしないのかということも、実際にベントをしたいと言ってきたことに対して、保安院がいいのではないですかと言っていて、説明を受けたら、それはそうだ、早くやった方がいいではないかでしたし、海水注入についても東電が言ってきたのではないですか。東電が言ってきて、大丈夫なんだろうなという念押しをしたらそれに過剰反応したわけです。

ただ、少なくともそういう判断をするに当たって持っている情報を共有してないと、それこそ消防車が必要だとか、初日で言えば電源車が必要だとか、電源車が必要だというときに、何キロワットのどういうコードでつなぐものがなければいけないのかということが、わからなければ必要なものは取り寄せられなかったわけで、だから、記述的な部分のところで、それからそれに基づいて社会的に対応しなければならないところの線引きは、非常に微妙な難しいところがありますから、一体でやるしかないんだと思います。

○質問者 当事者意識と能力がないとおっしゃいましたけれども、その能力というのは、

【取扱い厳重注意】

当時の現在進行形における収束する意味についても能力がない。

○枝野前官房長官 収束もないでしょうね。私は、今でもないと思います。当時はなかったと思いますね。

象徴的な話ですけれども、菅さんが東電に乗り込んでいったときの話は余り詳しく聞いてないんですが、その段階まで平時と同じような社内決済手続きをやっていたみたいです。考えられないですね。今、ほかのことを考えてもそういう社風は変わってないみたいですね。

危機管理のときに従来と同じ決済システムで、そもそも大部屋しかないところで、大部屋で全部危機管理をやっていた。これは全部間接情報ですから、多分皆さんのところで事実関係を詰めていただくんですが、本当にそんなことをやったら考えられないですね。それほど反省しているとは思えないです。

○質問者 関係のどなたかのヒアリングの中で、リーダーが決める組織ではなくて、みんな決めて渡れば恐くないみたいな組織だと。

○枝野前官房長官 そうだと思いますね。

○質問者 そういうことですか。

○枝野前官房長官 はい。

○質問者 撤退のところまで一点だけ。

先ほど菅総理を起こされて、御前会議で総理に説明されたということなんですが、この場所で枝野官房長官から説明をされたという話を伺っておりまして、そのときの話の挙げ方として、東電が全面撤退ということを申し出ているので、認めますかという聞き方であったという方と、どういう条件が成就すれば、今後撤退も認める可能性があるでしょうかと、要するに、今は認めていないけれども、今後どういう条件で悪化すれば認めますかという聞き方をされたら、ちょっと微妙にニュアンスが違う説明ぶりをされていたとおっしゃっている方がいてですね。

○枝野前官房長官 少なくとも主観的には前者です。間違いありません。今後どうするかなんていう話で夜中の3時に起こしたら、さすがにそれは起こしたのは何だろうなということを超えて、当時は総理をいかに休ませなければいけないかという命題とも全く反するので、そんなことはあり得ないわけで、私はそんな言い方はしないと思うんだけど、これは記憶ではないですが、多分私だったらこういう言い方をしたろうなという想像ですが、東電が全面撤退だなんてばかなことを言っていますとか、確かにそこで働いている従業員の命のこともあるから、先々考えなければいけないんですけれども、今、全面撤退なんて言っているんですが、これはさすがにちょっと決め切れないみたいな言い方はしているかもしれない。

ですが、趣旨としては全面撤退の話について来ているので、従業員の命、作業員の生命にも関わる事だから、総理も含めて決めさせてくださいという趣旨です。それは明確です。でなければ夜中の3時に起こせません。

【取扱い厳重注意】

○質問者 一緒に入られた方の中で、官房長官が最初に説明された言葉で、事前に論点をどうするかを詰めていたとは聞いているんですが、今すぐ撤退すると言っていますけれどもどうしますかという話ではなくて、むしろ撤退したいと言っているだけけれども、どういう状況になったらそれを認めますかという聞き方をされた。ただ、その説明が、いつも流暢な官房長官が若干言いよどんでいたのも、長官もさすがに何かちゅうちょされているところがあるんだと思っていたんですという話も、ちょっとありました。

○枝野前官房長官 まさに、総理を夜中にたたき起こさない判断できないような話であると。一方で、菅さんの結論はすっぱりとしていてすごいなと思ったんですが、それはもうそのまま撤退したら大変なことになるというのは、勿論こっちもわかっていたわけだから。だけれども、例えば目の前であそこがチェルノブイリ型の爆発なんかしたら、まさに残れと言った人たちが直接そこで即死ですから、それはそんな怪々な話ではないという思いは、そのとき確かに持っていましたから。だけれども、菅さんに余りむにやむにや説明すると、それが一番嫌いな人ですから、今、言ったような趣旨の感じで。

そもそも菅さんは撤退なんかあり得るかという結論を出しそうだと思っていたので、ただ、そのときに彼がわっと何か言ってしまう前に、作業員の皆さんの生命のリスクということもあるみたいなことは、ちゃんと同時に考えた上で結論を言ってねという思いはあったかもしれないですね。これは全部想像です。今のような受けとめがもしあるんだとすれば、そういうことだと思えます。ただ、記憶として鮮明なのは、菅さんは非常にクリアでした。

○質問者 そもそも清水社長からの電話は、枝野官房長官に対して了解を求めるような電話だったんですか。それとも内部でこういう議論をしているという報告なのか。

○枝野前官房長官 了解を求めようとしたから、私の答えは、そんなことは私の一存で答えられませんという答えなんです。

○質問者 それに対して、清水社長の反応がどうだったかという御記憶はありますか。

○枝野前官房長官 強く押し戻すでもなく、わかりましたでもなく。

○質問者 それから御記憶の中で、細野さんであるとか、海江田さんなんかについても電話があったと思うということをおっしゃっておられましたけれども、なぜそのように思われるんですか。

○枝野前官房長官 私が清水社長からの前に、その話を聞いていたからです。

○質問者 お二方からそういう電話があったという話を聞いて、その後で清水社長からお電話があったということですね。

その後、15日の4時ごろに清水社長が官邸の方に来られたと思うんですけれども、どなたがお呼びになったかという記憶はありますか。

○枝野前官房長官 まさに御前会議を踏まえて統合本部をつくることにしたので、それで呼んだんですね。

○質問者 それは事業者の了解を得るということのために。

【取扱い厳重注意】

○枝野前官房長官 それから、社長を呼んで撤退なんてあり得ないということを伝える。もしかすると、呼んでいる途中に相談をされていて、もう乗り込むしかないではないかみたいな話になったのかな。ちょっと明確ではないです。そういう一連の流れの中で。

○質問者 実際に清水社長が官邸の方に来られて、その席には枝野大臣も立ち会われておられますか。

○枝野前官房長官 立ち会っています。

○質問者 その際、菅総理の方から撤退はあり得ないという旨を伝えられているということによろしいんですか。

○枝野前官房長官 そうです。

○質問者 それに対しての清水社長の反応はどうだったんですか。

○枝野前官房長官 予想どおり。わかりました、撤退なんかしませんと。

○質問者 特にごねるとかいうことはなかった。

○枝野前官房長官 多分それは想像どおりでした。この流れの中で総理が呼んだら撤退なんか許してもらえないということだから、多分あの人はわかりましたと言うねと言っていたとおりました。

○質問者 統合本部、要するに国側の方が事業者の方に。

○枝野前官房長官 そっちの方がごによごによ言っていましたね。

○質問者 言っておられましたか。

○枝野前官房長官 余り正確ではない。多分場所もないしとかとごちゃごちゃ言っていたから、とにかく行くんだみたいな感じで。

○質問者 一応、もうその場で行くということが決まった。

○枝野前官房長官 ごによごによ言っていましたけれども、5分も10分も粘るとか、全然そんな感じではないです。二言三言、勘弁してくれないかみたいなこと。だから、そんなに強く記憶に残っているわけではないですが、ごによごによ言ったのは記憶があります。

○質問者 わかりました。

○質問者 今のことに関連して、統合対策本部が3月15日の設置ですけれども、18日の記者会見のときに、今日の報道で全面撤退する意向を政府に打診したという報道があるんですが、私は承知しておりませんというのは何か。

○枝野前官房長官 さすがにこの段階では言えなかったです。この段階で、そんな打診もありましたが断りましたと言ったら、いろいろな意味でもたないです。

○質問者 わかりました。

次の避難の方の話です。先ほど①～⑥までのそれぞれの避難指示、屋内退避指示について順次教えていただけたらと思うのですが、①につきましては、先ほど既にお聞きしましたので②から行きたいと思っておりますけれども、②のときには1Fから半径10キロの避難の指示ですので、3月12日5時44分は総理が1Fに視察に行く直前の話でありまして、恐らくこのときは官房長官も地下にいらっしやって。

【取扱い厳重注意】

○枝野前官房長官 これはむしろ主導した感じにありますね。

○質問者 このときの議論といいますか、なぜ10キロを出したか。なぜこのタイミングかというのと、なぜ10キロかということです。

○枝野前官房長官 要するに、ベントができてないと。するすると言いながらベントができてなくて、なぜできないのかすら報告がない。ベントできないとどうなるんだと言ったら、班目さんだと思うんですが、水素爆発ではなくて炉の爆発、普通はそんなに簡単に爆発するわけではありませんがみたいなことは言いながらも、どんどん圧力が上がってきたらどこかが壊れますと。そうしたら放射性物質が出てきますという趣旨の話があったので。ベントがいつできるかわからない状態でしたから、それは早めに逃げておいてもらえないですねというのが、まさにベントができてない、いつできるかわからないという状況で圧力がどんどん上がり続けたことを考えたとき。

そうすると、たしか3キロはすぐに逃がすで、10キロが3.11以前の想定の方難の区域でしたから、そこまで逃げておいてもらえないではないかみたいな話。保安院も安全委員会もそんなに異論なく、そうですねみたいな感じだったと思います。

○質問者 恐らく、今、おっしゃったのはEPZという重点的な対策区域のことだと思うんですが、EPZは8キロないし10キロと、若干幅を持った決め方がしてあって、そのときの議論の中で、8と10のどれにしようかという話。

○枝野前官房長官 余り記憶にはないです。

○質問者 わかりました。

主として、ベントがだめなら広げなければいけないではないかという流れから決まったということですね。

○枝野前官房長官 はい。

○質問者 これも同じ、次の2Fから半径3キロの指示。これは直後ですね。

○枝野前官房長官 この前ぐらいに、第二原発で15条が出たのではないですか。だから、それに基づいて自然体ですね。

○質問者 これはルーチンワーク的に決められたということですね。

○枝野前官房長官 はい。

○質問者 4炉のうちの3炉について、緊急事態で15条通報がなされておりました、それに基づいてということですね。

○枝野前官房長官 はい。

○質問者 ④ですが、これは1Fでの爆発があった2時間後ぐらいのお話でして、爆発があった1Fではなくて、2Fから半径10キロの避難ということなんです、このときは入ってらっしゃいますか。

○枝野前官房長官 まだ1Fで何が起こったのかがわかってない状態ですね。

○質問者 そうです。

○枝野前官房長官 入っていた記憶がないんですが、発表していますから。自分で会見す

【取扱い厳重注意】

るような話が入っていたと思うんです。

○質問者 ただ、この日、17時47分の会見のときには、17時39分の10キロの避難の指示については言及されてないです。

○枝野前官房長官 では、入ってないですね。

○質問者 入ってないでしょうか。

○枝野前官房長官 入ってないですね。直前で入って、自分がかんで決めていたら当然言っています。

○質問者 わかりました。

そうすると、これは入って決めたのかといたら、当時はわかってらっしゃらないですね。

○枝野前官房長官 当時はわかってないですね。

○質問者 事後的にもどういうふうに決めたのか、何かお聞きになったことはないですか。

○枝野前官房長官 水素爆発で、なおかつ、水素爆発は起こらないと言われていて起こったわけです。第二の方も15条事象が来ているんだから、いつ何が起こるかはわからない。かといって、今すぐに何かが起こるという状況ではないから、屋内退避ということではないかなと思うんです。

○質問者 わかりました。

実はこれはその直後、1時間後ぐらいに出ることになります1Fからの20キロと若干ずれがあって、はみ出る部分があるんですけども、ほとんど重なってはいるんです。後で⑤の話で、また改めて聞こうと思っていたんですが。

○枝野前官房長官 10キロは避難か。

○質問者 避難です。

○枝野前官房長官 やはりふわっと危ないと思ったんだろうな。

○質問者 実はこのとき、2Fは事象が特別進んでいるということもなくて、考えられるのは1Fでの爆発ぐらいしかない。

○枝野前官房長官 それがきっかけだったと思います。

○質問者 そうしましたら、次の⑤の1Fから半径20キロ圏内の避難の指示のところなんですけれども、先ほども若干お話を伺いましたが、この議論は6時前後に記者会見をされておりまして、この避難指示のときには入ったか入らないか、若干微妙な時間帯なんですけれども、議論に参加された御記憶がもしあれば。

○枝野前官房長官 後から思ったら非常に不本意なんですね。18時から記者会見をさせておいて、そこで避難の指示を出させずに、終わったところで避難指示を出しているのは、官房長官としては非常に不本意なんですけれども、2時間も待たせてしまっているわけですから、その前の段階で議論していればその結論を待ちますよ。だから、かんでない。余り考えにくいんだけど、だれか記憶喚起をしてくれるようなことを言っていないですか。

○質問者 このころの官房長官としての役割は、避難の件は官房長官のところでは最後決め

【取扱い厳重注意】

たという話もあるんです。

○枝野前官房長官 ある時期から先はそうです。特に屋内退避とか、ずっと後になっての緊急時準備区域とか、あの辺のところは私のところで整理していました。

○質問者 このころはいかがだったでしょうか。

○枝野前官房長官 間違いなくかまないとできないです。かまないとできないというのは、危機管理監のところ、つまりオフサイトセンターが機能しない、自治体も多分ほとんど機能しない。したがって、危機管理センターから中央政府の各省、つまり自衛隊とか警察とかを使わないと避難ができない。それから、特に高齢者とか病院とかは地元の保健所ベースでは無理だから、厚労省が直接把握して、そこと警察とか消防とか、場合によったら自衛隊と連携してやってもらわないと困るという話は、多分この段階以前に既に伊藤さんなんかと話をし、したがって、そのオペレーションと同時並行。

かんでいて、その準備が何とかなりそうですという話が記者会見が終わった後だったのかな。それにしても早いな。

○質問者 特に⑥の1Fから20キロというのは、タイミングとしてはあつという間に決まってしまったという感じがちょっとありまして、これまでいろいろなヒアリングで聞いているところによりますと、きっかけは先ほど話が出ました再臨界の可能性が否定できないこともあったようです。しかし、再臨界の可能性は、最終的には否定されたわけですので、その理由だけではもたないだろうなどは思うんですが、再臨界という話をきっかけに出ながら、再臨界だけではなくて、1Fでああいう爆発が起きているからというのが大きな理由なんだろうけれども、どんな議論があったのかというのは、実はなかなかクリアにわからないところ。

○枝野前官房長官 避難についてはかんでいたんですけれども、避難の仕方の方なんです。だから、気を付けないと誤解されるかもしれないんですけれども、本当に避難できるのかという側面での関与なんです。ここまで避難させたいと。そうは言っても、実際に避難させられるのみたいな話を伊藤さんとか西川さんと私なんかのところ、それこそ避難の指示だけをして、避難しろと言っても避難のしようがありませんと。

実際に、それでも病院で取り残された方々が、たくさん出てこられてしまっているのは大変申し訳ないんですが、まさに一貫してそういったことを心配していて、そのロジをちゃかと手配したい。そのロジが手配されないうちに急に指示されて、避難指示を出してしまうと、結果的に病院とか高齢者が取り残されるから、そのタイミングはちゃんと考えてくれみたいな方向でのロジ関与なんです。だから、なぜ20キロなのかとか、これで広げようとかということよりも、むしろそっち。

○質問者 オペレーションの可能性ということですね。

○枝野前官房長官 はい。

○質問者 今、伊藤危機管理監と西川副長官の話が出ましたけれども、伊藤管理監と西川副長官の役割分担というのは何かあったんでしょうか。

【取扱い厳重注意】

○枝野前官房長官 御本人同士がどう考えていたのかはわかりませんが、一種のローテーションみたいな感じ。とにかく不眠不休で2人が倒れてしまうわけなので、とにかくどっちかはいよいよみたいな感じで。

○質問者 瀧野副長官も、そのローテーションに入っちゃった。

○枝野前官房長官 入ってないです。危機管理という意味では、やはり伊藤・西川のラインです。2人とも警察かな。まさに危機管理のところはこのラインだった。実際にその2人が、危機管理センターを仕切ろうとして仕切ってやっていたと思います。なので、どっちかはいってくれと。それで、大きな指示ができたときは受けた人間が責任を持って引き継ぐなり、自分が処理するなりしてくれみたいな感じでこっちは受けとめていました。

○質問者 わかりました。

原発と震災という分け方ではなくて。

○枝野前官房長官 私は、そういう理解はしてなかったです。

○質問者 してないということですね。

この20キロの避難の指示の直前の6時前後、5時47分から始まっていた官房長官の記者会見の中で、爆発がありましたけれども、避難範囲を広げなくていいのですかという質問があつて、長官としては、その際に何度か同じような質問があつたので答えられている中で、現在の爆発も10キロという範囲で十分だと考えている、あるいは今後線量を見て、それに応じて変更するかもしれないという話をされているようなんですが、そういう記者会見での対応と20キロの避難指示というので、私がしゃべったこととは違う結論になってしまったみたいな感触を持たれた記憶はないですか。

○枝野前官房長官 避難区域はどうするんだと聞かれることは、記者会見を始める前からわかっている話で、なおかつ、結論を出してないわけだから、どちらにでもとれるように答弁したつもりです。

○質問者 わかりました。

その後、9時の記者会見のときには、線量が下がっているのにどうして広げるんですかという質問がありましたけれども、そこは想定範囲内です。

○枝野前官房長官 言われるなどは思いました。

○質問者 思っちゃったということですね。わかりました。

それと、④と⑥の10キロ圏内の避難指示と20キロ圏内の避難指示なんですが、このときに保安院でメモをしている書類を見ていきますと、当初は両方とも20キロで検討せよという指示が出たかのようなメモがあるんですが、そういう御記憶はございますか。前にも後にもそういう話を聞かれた。

○枝野前官房長官 私からですか。

○質問者 いえ、官邸の中です。今のお話の流れですと、こちら辺の話には、官房長官はほとんど関与されてないのかなと。

○枝野前官房長官 もしかすると、まさにこの③まではともかくとして、③以降の避難は

【取扱い厳重注意】

オペレーションが大変だという話はしていましたから、12日のどの段階だったか記憶はありませんが、どれぐらいの距離だったらどれぐらいの時間と人手が要るんだみたいな話は、伊藤さんなんかと話をしていた記憶があります。つまり、今後広がっていく可能性がある。広がっていくときに、どれぐらいのスピード感で広げられるのかみたいな話はしていたので、それに基づいて、保安院にシミュレーションをしているのかみたいな話はあってもおかしくはないと思う。だから、不自然ではないと思う。

○質問者 わかりました。

○枝野前官房長官 多分このときは、それができるのかという話と、する必要があるのかという話と2つの側面があったんですね。

○質問者 どっちかはちょっと区別できないんですね。

○枝野前官房長官 はい。

○質問者 わかりました。

○質問者 ロジのことを大変心配されてやっておられたわけですがけれども、ひょっとしたら取り残される人がいると。

現地に行って聞いてみますと、例えば逃げろと言われてどのぐらいの期間を逃げるのか、2～3日なのか、1週間とか10日だか、わからないまま着のみ着のままで逃げましたというのがいるんです。それも逃げる人の立場に立ってみると、そこまで教えてやればいいわけでしょうけれども、そういう配慮はどこがやったらよかったですでしょうか。

○枝野前官房長官 今の立場だと言いくいんですけれども、保安院でしょうね。何日間逃げてなければいけないとか、しばらく帰ってこられないかもしれないかというような問題意識を持つどころではなかったですね。とにかく、今になって思うと、それがなかったからそんなことはみんな忘れていますが、それこそチェルノブイリとかのように、すぐに高放射線量を浴びて健康に害を及ぼすリスクを物すごく心配していたわけなので、この時点では、いきなり即死をするみたいな話とか、いきなりケロイドになるみたいな話の被害を心配していたわけです。だから、とにかくいつ戻ってこられるかとかではなくて、本当にどこまで逃がしておけばそういうことにならないで済むのかということと、実際にそのオペレーションができるのかということで、本当にいっぱいいっぱいでしたね。

まず、何と言っても心配しなければいけなかったのは、急性被曝によるリスクですよ。

○質問者 その時点では、10日とか1週間とか、例えば保安院に考えさせると言っても、保安院自体も無理ですか。

○枝野前官房長官 それは無理だったのではないですか。まして15日に大量放射性物質が出る前の段階ですから、少なくともその段階だったら冷却がうまくいって、まだ若干封じ込めがうまくいってないだけであって、15日の線量を見るまでは封じ込めに失敗してない状況ですから、それだと意外と早く帰れますという結果が出ていた可能性もありますね。

○質問者 今度は、⑥の3月15日11時における1Fから20キロ～30キロの屋内退避の指示なんですけど、この検討の中あるいは決済。

【取扱い厳重注意】

○枝野前官房長官 これはかんでいます。

○質問者 どういう議論がされて、どういう理由でどういう決断をされたのかということについて、御記憶の範囲内でよろしくをお願いします。

○枝野前官房長官 私の記憶だと、恐らくこのころから北西部の方向を初めとして、遠いところのモニタリングの結果が若干入ってきたのではないですか。

○質問者 この日の夜ぐらいからだんだん入っていますね。

○枝野前官房長官 この日の夜ですか。

○質問者 高い線量。

○枝野前官房長官 この日の夜か。

○質問者 ただ、モニタリング結果は13から出ていますけれども、結構高いのが出たのは15日の夜だったね。

○質問者 ちょうど日付が変わるぐらい。

○枝野前官房長官 15から16に変わるぐらい。何でかな。

意識としては、本当にこの距離で大丈夫なんだなということは、一貫してずっと認識を持っている中で出てきた話だと思うんです。

○質問者 15日は朝に4号機が爆発し、2号機でも音がしたという事象が起きた日ですね。

○枝野前官房長官 次々といろいろなことが起こって。

3号機の水素爆発までは、1号機の水素爆発の段階で、しばらく後にほかのでも起こる可能性があるようだとまでは予見していたわけですが、それで瓦れきそのものに高い放射線量とか、まさに水が入るとか入らないとかというのは、この日の未明までやっていたわけですね。本当にこのままで大丈夫なのかという話は、いろいろなところで出ていました。私もそういう問題意識を持っていました。なおかつ、逃げろという決め手はない。

一方で、3.11前からマニュアルを見ると、何かがあっても屋内にいと、急性被曝による影響は相当小さい。何かありそうな可能性がまさに次々と、何か起こって線量を見て、これぐらいの線量の上がり方でよかったねみたいな話が繰り返されたので、本当に大丈夫かというのをこの間ぐだぐだ議論していたのが、多分その14日の深夜から15日未明というのは一番大変だったときです。そうした中で、屋内退避でもリスクは相当小さくなるんだから、当面何が起こるかがわからない状況が収まるまでは屋内でと、今、思うとそういうことだと思う。

まさにそのときは、屋内退避の指示を出してしまうと、解除するのがこんなに大変な法制だということの意識がなかったのは反省点です。とにかく、今、一番何が起こるかがわからなさそうだから屋内退避をしておいてもらって、解除しようと思ったら解除の要件を満たしませんと言われたんです。そこから先は困ったんです。

今、また収束という言葉がいろいろなメディアで取り上げられていますが、大きな意味では事故の状態が改善されているわけではない。だから、解除の要件を満たしませんと言われてしまって頭を抱えたんです。あえて言えば、そのことを意識せずに屋内退避の指示

【取扱い厳重注意】

をしてしまったことが問題です。ここは物すごく反省点です。

確かに言われてみれば、キリンか何かから放水してとかいうレベルで、本当に収束方向に変更できるのかと言われたら、それは確かに原発が落ち着いているとは言えないわけで、簡単に解除できませんと。法制上もそうだし、よく言われてみると、確かにその法制上の理屈はわからないではない。解除がこんなに困難だと思わないで出したことが反省点です。

○質問者 ところが、最初は 30 キロ避難という話。伊藤危機管理監への指示は、当初 30 キロを検討しろという話があったと聞いています。

○枝野前官房長官 まさに両面ですよ。個別に皆さんが何と言っていたかの記憶はないんですが、私の全体としての印象、記憶では、20 キロで本当に大丈夫なのかということについて、だれも明確なことは言ってくれない。20 キロで大丈夫ですとは言ってくれない。一方で、30 キロなら 30 キロまで逃がさないといけないのか、これについても専門家のところからはだれも明確なことは言ってくれない。そうしたら、念のため 30 キロまで逃がそうと思ったらどうなるんだとか、多分いろいろなことを検討してきたのが 12 日～15 日までの間だったということです。全体の構造としては、それは間違いないです。

だから、30 キロにしようと思ったものを屋内退避にとどめたというよりは、とにかくどういう選択肢があり得るのか、その場合のメリット・デメリット、いろいろなことを考えていたということです。

○質問者 そうしますと、30 キロに広げた場合に 15 万人の避難者が増える。その場合に、避難するにも 1 日、2 日で済むものではないという話は、その流れの中で出てくるということですか。

○枝野前官房長官 そうです。そういう認識は持っていました。今、危ないから何とかしなければならぬのに、そんなに何日間もの間移動するとか、外に出たりするという話の中で、その途中で何か起こってはまずいから屋内退避をかけておいて、悪くなったときに備えてそういった人を逃がす準備と、これで収まってくれば戻せばいいみたいな感じだったと思います。

○質問者 かえって危険だということなんですね。

○枝野前官房長官 はい。

だから、今後のことを考えたら、屋内退避という選択肢自体をどうするのかということも私もよくわかりませんが、本当に、今、ばんといきました、それで緊急速報を流して、これからの半日は屋内退避してくださいとかというんだったら物すごくわかるんですが、一般的に屋内退避を使ってしまうのはどうなのかなというのは、正直に言って今回の反省を含めて私もよくわかりません。

○質問者 次に、3つ○がありますけれども、恐らく相互に関連していると思いますので一体的にお聞かせ願いたいと思うんですが、この話はその後ろの3つ、3月25日以降の話は恐らくモニタリングとか SPEEDI の話が密接に関連していると思われまますので、先にモニタリング、SPEEDI の話をお聞きしてからにしたいと思ひまして、それでよろしいでしょう

【取扱い厳重注意】

か。

○枝野前官房長官 はい。

○質問者 3の方に行きますが、3月16日にモニタリングの役割分担が官房長官指示で決められている。このメモに書いてあるとおりの結論が、紙にされているということまで承知しているんですけども、役割分担の発案といいますか、これは鈴木副大臣が発案されたということでしょうか。

○枝野前官房長官 少なくとも私の明確な記憶が残っているのは、とにかくモニタリングのデータが五月雨式に、なおかつ、みんな基準もばらばらに、いろいろなところから来るわけです。ちょっといいかげんにしてくれと。こっちも判断に困るし、情報提供を受ける国民の側も訳がわからない。どこかで集約して、何時間置きに定期的に出すということをやってもらわないと、訳がわからないではないかと。

言ったかどうかは別にして、多分13以降だと特に周辺部モニタリングで、ここは高い、ここは低いと、地図か何かで落としてわかるようにしないとまずいではないかみたいな意識があって、だから何とかしろ、どこが責任者の仕事なんだと言って、ちゃんと文科省がやれということをした記憶があります。

○質問者 これは16日の朝に、原安委の久住委員あるいは官邸の地下にいらっしゃった方も集まって指示をされたと聞いているんですけども、鈴木副大臣からヒアリングをしたところによりますと、鈴木副大臣は収集と評価、①と②ですね。特に評価についての案を考えていらっしゃって、翌日16日の朝の官房長官指示の。

○枝野前官房長官 16日の朝はどこでやった。

○質問者 地下と聞いております。

○枝野前官房長官 それで間違いないですか。

○質問者 はい。

記憶の喚起のために、そこに至る経緯を思い出すきっかけになればと思うんですけども、どうも久住委員は当初、官房長官室の方に来るように言われて、官房長官室の前の部屋で鈴木副大臣と会われて、その後、長官と一緒に空いている部屋を幾つか探して、地下にたどり着いたという話もあるんです。

○枝野前官房長官 もしかすると、たまたま鈴木さんも同じことを考えていたのかもしれないけれども、私の記憶としては文科省と原安委、保安院も入ってないかな。

○質問者 入っています。

○枝野前官房長官 入っていますね。関係のところを呼んで、モニタリングをちゃんとどこかで整理してくれないと困る、どこがモニタリングの責任になるんだと言って問いただしたら、モニタリングは基本的に文科省ですと。だったら、文科省は徹底してちゃんとや

【取扱い厳重注意】

ってくれと。原安委は、それに基づいてちゃんと評価してくれということを私から言った記憶です。

○質問者 そうですか。

○枝野前官房長官 だから、鈴木さんが同じことを考えたのかもしれませんが。あるいは似通ったのかな。

○質問者 集まっているメンバーが全然違うんですけども、実は前日に官房長官秘書官の方が3名でしたか。関係省庁の課長クラスの人を集めまして、どんなモニタリングをやっているのかというのを関係省庁から聞いているという事実があります。ただ、これが16日に官房長官が関係省庁の幹部を集められて出した指示と、どうつながっているのかというのはよくわからなくて、我々は官房長官指示でどんなモニタリングをやっているのかを秘書官に調べてもらって、それを踏まえて16日の会議になるのかなという線も。

○枝野前官房長官 秘書官のところまでの正確な記憶はないですが、とにかくモニタリングが整理されない、ちゃんと把握できないことについては物すごく問題意識を持っていたので、ちょっとどうなっているんだということを言うと、秘書官室も優秀ですから、多分情報を集めてくれたということがあったんだと思います。そこで、文科省はちゃんとやってくれよみたいなことがあったのか、なかったのかはわかりませんが、秘書官レベルのところでは話がかなくて、それなら呼んでやらないと整理がつかないですねとかいうことがないと、わざわざ呼ばないです。

つまり、久住委員長代理とか鈴木副大臣を呼んでいる。副大臣をわざわざ呼ぶということはこっちに明確な問題意識がないと、あの局面では呼ばないです。あるいは向こうから官房長官に面会を求めることがない限りは、そんな状況ではないので。あえて言えば、クラス関係なしに指示を出していましたから。

それこそ緊参チームにいるリエゾンは局長クラスでもあるから、その局の担当のことでなくても、何とか省で責任を持ってやってくれと指示を出していました。そういう局面でしたから、わざわざ鈴木副大臣を呼んでいるのは、そういう前段があつてにっちもさっちもいかないから、副大臣とかを呼んでやらせないといけないなど、そっちが先行です。

逆に言うと、文科省はそういう状況をわかっていたから、こういうことに落とすしかないみたいなことを省内で考えていたとしてもおかしくないとは思いますが。

○質問者 なるほど。

○枝野前官房長官 ただ、これは明らかに官邸主導です。非常にいらついて何度か秘書官とかに指示を出して、どうなっているんだとかとやった上で役所を仕切ったんです。

○質問者 わかりました。

○質問者 よろしいですか。

ここは鈴木副大臣から聞いたお話もございまして、3月16日の朝の協議の前に、福山副長官と鈴木副大臣がモニタリングをしっかりとやらんといかぬということを話されて、当時、枝野長官は非常にお忙しかったので、16日の朝の緊参チームの全体会合が始まる前に、何

【取扱い厳重注意】

とかして時間をいただいたということをおっしゃっておりまして、要するに、鈴木副大臣が強い問題意識を持っていて、官房長官から政府全体に指示を落としていただきたいという趣旨でセッティングをしたということもおっしゃっています。

○枝野前官房長官 逆に私が問題意識を持っていたのは一貫して、文科省がちゃんとやれです。文科省がちゃんとやらないことに対して、私はいらついていたんです。だから、こちらの主観としては文科省に対して、他省庁の分も含めて、他省庁というのは東電がやっていることとかを含めて、文科省が全部を集めて、自分のところの責任で整理して、ちゃんとアウトプットしろということを言いたくてやったんです。

○質問者 この評価を安全委員会にやってもらうというところはいかがですか。

○枝野前官房長官 これは当たり前ではないですか。少なくともオフィシャルには、一貫してこれで安全なのかどうかというのは安全委員会に聞いていたわけだし、ここは余り本質ではないです。文科省がちゃんと責任を持ってデータを全部把握しろと。

あえて言えば、ちゃんとやらないから文科省から離れたかったぐらいなんです。私は最初、保安院でもどこでもやるというニュアンスで動いていたんですけども、文科省がモニタリングはうちの仕事ですからと。だったら、ちゃんとやれということではないですか。うちの仕事ですからと言う割にはいい加減にしかやってないから、自分の役所で手元に持っているデータだけをちゃんと整理して出すなんて、そんな無責任なことをやっている場合ではないだろうと。文科省の仕事であるならば、モニタリングについては各省いろいろな人がやっている分を全部あなたのところで集約して、ちゃんとわかるように整理して発表しろという仕切りをしたかったわけですから、問題意識は全く逆なんですよ。

○質問者 確かに話の主眼は、モニタリングはだれがやるかという話だったとは聞いていて、2つ目の話は主眼ではないというふうには聞いて。

○枝野前官房長官 SPEEDIの話なんかはしてないです。

○質問者 してないんですね。

○枝野前官房長官 それは文科省が勝手につくった話です。

○質問者 とういうときに SPEEDI という言葉が出てないというのは、鈴木副大臣からシミュレーションという言葉は出ていましたか。

○枝野前官房長官 少なくともあった記憶はないですね。明確にないという記憶もないです。

○質問者 御承知のとおり、SPEEDIもこのときの仕切りで決まっている。

○枝野前官房長官 それはないです。全く違います。全く別のところですね。16日前後ということは一緒ですが、別です。

SPEEDIについては、そもそも別に呼ぶなり何かしているはずですが、つまり、ずっとモニタリングができない、整理されてないという話の問題意識と、14とか15ぐらいから記者とか報道とかがいろいろ出てきて、何で出せないんだという話で、秘書官が何かを通じては、例の公式見解の基礎になる情報がないからできませんという話は入っていたが、そう

【取扱い厳重注意】

は言っても、みんなが注目しているこんな話が、そんないい加減なことでもいいのかみたいな話の問題意識があったので、SPEEDIの話で、どこかで呼べと言っているんです。でないとやってないはずですよ。

○質問者 別の仕切りでやっているんですね。

○枝野前官房長官 別です。テーマが違います。

○質問者 わかりました。

文科省は、この評価にSPEEDIは含まれるという解釈で、原安委にSPEEDIの運用を移したと言っているわけなんです。

○枝野前官房長官 それは、官邸の指示でないのは間違いない。文科省が勝手にやった話。

そもそもSPEEDIの例の逆算の話の時点では、少なくとも明確にはSPEEDIがどこの役所の所管なのかを知らなかったから。とにかくSPEEDIの関係者を呼べという言い方です。だから、来ていたのが文科省だったのか、原安委だったのかすら記憶にないです。

○質問者 避難というのは本当に人数が多いし、秩序だって、老人ホームは大変だし、行く先も大変だし、そういう判断をするときに本当に整然と行うためには、事前にマニュアルがあれば一番いいんですけども、そういったものについて、全然ないに等しいような状態だったわけです。何でこんなのができてないんだとか、その問題についてはどうふうにお考えになったんですか。

○枝野前官房長官 勿論全部細かいところを把握していたわけではないですが、まず10キロ圏内のところはないなりにあったけれども、機能しないという認識でした。つまり、地震・津波の影響とか、そのことで電気が落ちていて情報が伝わらないとか、本来のマニュアルどおりに動かすために連絡がつかないみたいな話で、私のところに上がって来ました。だから、そのときはまさに複合災害問題だったと思っていました。ただ、10キロから広げると、伊藤さんとかが苦労しているなという感じでした。

記憶も2つあって、複合災害のときにマニュアルどおりにどう動かすのかという話と、もう一つは狭過ぎるという話ですが、ただ、これは技術的な検証の中でやっていただいた上で御判断いただいた方がいいと思うんです。

難しいなと思うのは、まさに急性被曝を避けるための逃げ方と、今回の事故のような中長期的な影響ということを中心に考えて、逃げてもらわなければならないということの逃げ方と、それを事故の進行状況の中で見極められるのか、見極められないのか。見極められるんだったら逃げ方は違うと思いますね。

あえて言えば、今回は急性被曝を想定して急いで逃げてくれということをやった結果として、それしかないわけですから、非常に近い距離の人たちには御迷惑をかけたし、逆に飯館村なんかは急性被曝を想定したことについてしかない中で、長期的影響のことで逃げてくださいということの説得するのに物すごく時間がかかって、結果的に半月ぐらい遅かったのではないかと反省はあります。1か月半ぐらいをかけて説得していたわけで、もう半月ぐらい早くできれば。だけれども、そのことを想定したマニュアルとか制度には

【取扱い厳重注意】

なってなかったですね。

○質問者 たばこをお吸いになりますか。

○枝野前官房長官 ちょうど半分。何分まで休みますか。15分再開ぐらいにしますか。

○質問者 15分再開で。

(休憩)

○質問者 続きで、先ほどちょっとお話が出たところなんですけれども、枝野長官がSPEEDIというものの存在をいつ認識されたかという話なんですけど、これはいかがですか。

○枝野前官房長官 正確な日にちは本当に覚えてない。ただ、逆算しろという指示が下りて実施が始まったのが16日だと聞いているんですが、そうだとすると、その指示を出したということは、その時点では認識をしていた。

その前の段階で、放射性物質の出ている量がわからないから使えないんですという説明を聞いて、そんな話があるのかということで、逆算すればできるのではないかみたいな話をした結果が16日に下りているので、そういう流れです。

○質問者 逆算の話につきましては、先ほどの16日の役割分担と結構関係していて、16日の役割分担で、評価は安全委員会がということになりましたので、文科省がSPEEDIの運用は安全委員会でよろしくねということで、すぐに連絡が行ってオペレーターを移すと。

もともと安全委員会の専門家の中に、SPEEDIの開発に関与されている方がいらっしゃって、マニュアルの中にも放出源情報がわからない場合については、逆算でやるということも書かれてありまして。

○枝野前官房長官 あったんですか。

○質問者 それで、久木田委員長代理にもそういう発想があって、■■■■さんという開発に関わった技術者の方も、それをやりましょうということで始めてはいるんです。その結果が3月23日になっているんですが、一方で、長官が逆算したらどうかというアイデアを出されたという話も聞いておりまして、それが伝わったのかどうか、ちょっとそこは我々の調査不足でまだわかってないところなんですけど、恐らくそういう御指示があれば加速した部分はあるだろうとは思いますが、もう独立に始めていたことは始めていたようでありまして。

○枝野前官房長官 その16日の前から。

○質問者 16日の移管後ですね。

○枝野前官房長官 私が言ったのは16日以降ではないと思います。なぜなら、文科省だと思うんですが、SPEEDIの担当者呼んで、あるいはつかまえて、もう一回どうなっているんだと聞いて放出源情報がないとできませんと言わせた上で、モニタリングがこんなに何か所もあるなら逆算できないのと詰めた記憶がありますから。逆に言えば、そこで安全委員会として独自にやろうとしていたのであれば、当然そういう話が入ってこないとおかしいです。

だから、私が逆算できるのではないのと言った時点では、自ら逆算するという発想のな

【取扱い厳重注意】

い人に向かって言いました。

○質問者 それは文科省ということですね。

○枝野前官房長官 としか考えられないです。ただ、私の仕事の仕方が担当者を呼んでくれで、一般的に何省を呼んでくれとやっていませんので。

○質問者 もう一つ考えられるのは、小佐古さんが16日に内閣官房参与に任命されて、どうも18日付のペーパーでSPEEDIというものがありますよ、これを活用しましょうねというペーパーをつくられて官邸に持ってきているようなんですが、もしかすると、この小佐古さんのつくられたペーパーがきっかけなのではないか。

○枝野前官房長官 違うと思います。日にち的に違うでしょう。その16日以降で、移管は官邸の指示でないにしても、原安委が移管をされているという認識であって、なおかつ担当者として呼ばれていたら、それは始めています、やっていますと答えますね。私が指示したときは、そういう答えではなかったですから。だから、16日より前なんですよ。

○質問者 これは福山さんから聞いたお話なんですけど、日にちははっきりしないんですけども、16日～23日までの間のどこかで一度、SPEEDIというものがあるらしいので聞いてみよう。それで班目さんと呼んだと。そうしたら班目さんは、放出源情報がないから使えませんよと答えたという話を福山さんがされているんです。そこに同席されたということではない。

○枝野前官房長官 同席してないと思います。班目さんとそんな話はしてないですね。

○質問者 そうですか。

班目さんはそう答えられたのに、久木田さんと■■■■さんは、別途計算はやってたということなのかなと思っていました。

○枝野前官房長官 そうすると、担当者と呼べと言って原安委のだれかを呼んだけれども、班目さんと同じ答えをした可能性は否定できないですね。ただ、だれかに言われてではないです。文系だから間違っただけを言っているのかもしれないけれども、今どきのコンピュータだから逆算できるのではないのと自分で思ったので、自分で聞いてみたんです。

○質問者 そうですか。わかりました。

○枝野前官房長官 これはだれかに言われたのではないです。

○質問者 SPEEDI そのものの存在をどこで耳にされたかというところについて、先ほどマスコミではないかということをごらんとおっしゃったように記憶しているんですが、長官の会見をずっと見ましても、そのころはSPEEDIという言葉が出てなくて、本当にずっと後なんです。

○枝野前官房長官 会見で聞かれたわけではないと思うんです。新聞とかテレビでやっていませんでしたか。

○質問者 ずっと出てないですね。

○質問者 3月15日に文科省の記者会見において記者から質問が出ておりました、記者の間ではその辺りから話題に。

【取扱い厳重注意】

○質問者 15に出ているの。

○質問者 15に出ております。

○枝野前官房長官 あと、うちの秘書官は何か言っていないか。秘書官か、あとは情報が入っていると福山さんか寺田君か。つまり、情報があるのに隠しているのではないかみたいな話は物すごく神経質でしたから、よほどちゃんと見ておかないと、あるのに情報を隠しているという話が、どこかの役所でやってそうだとも思っていましたから。だから、例えばうちの秘書官室とか、寺田君とか、福山さんは物すごく敏感になっていたと思うので、多分その辺のどこかからあったんだと思うんです。

○質問者 わかりました。

逆に16日以前だとしますと、16日のモニタリングの役割分担のときに何らかの形で話題にしなくてもいいのかなという意識は。

○枝野前官房長官 モニタリングがばらばらでという問題意識と、SPEEDIがあるらしいけれども活用されていないという話は全く別次元ですね。

○質問者 わかりました。

それから、3月23日に逆算の結果が出たということで安全委員会の方がやって来たときのことについて、これはどうも結構長い時間帯にわたって、最後は総理のところまで行っていたということのようなんですが、御記憶の範囲内で流れを。

○枝野前官房長官 長い時間、総理のところということ自体の記憶が余りないです。

ただ、出てきたけれどもこれはあくまでも試算ですからみたいな、むにゅむにゅと余り自信なさげなニュアンスだったという記憶があります。

○質問者 今まで我々が調査したところでわかった事実としては、朝方、午前中に安全委員会の久住委員と、先ほども話が出ましたSPEEDIの専門で逆算を実際にされた[黒]さんという方が官邸にいられて、当初は細野大臣に説明をされて、官房長官に上げようということとで官房長官の部屋にという話を聞いているんです。

ところが、実際に総理の部屋に入ったのは午後2時半ぐらいでして、官房長官もちょうどお昼に、正確に言いますと、23日の11時～11時半の間は記者発表をされていて、安全委員会の方と細野さんがどの段階で長官室に入られてきたのか、それで分断されて、また話が続くのかなと。午前と午後で話が違ったんだろうとか、どんな話の展開があったのか、ちょっとよくわからないところではあるんですが、そこら辺は順序的にどこで話をされたとか、余り御記憶はないですか。

○枝野前官房長官 23日にSPEEDIの試算結果が出るというのは、多分前の日の夜に聞いていると思うんです。明日発表しますという話を聞いて、半日違いなら隠したと言われないうでいいだろうなというのを了解した記憶があるんです。23日の逆算結果の公表についての記憶はそのことが一番残っていて、詳しく説明を聞いて、余り記憶がないですね。

○質問者 ヨウ素剤の服用とか、避難の範囲の拡大とか、そういう話が一緒についてくる話なんですけれども、これは大変だなというふうに。

【取扱い厳重注意】

○枝野前官房長官 ヨウ素の剤服用の話は、結局ブルームが飛んでいったときに飲んでないと意味がない。つまり、24時間ぐらいしか効かないもので、がっ和高い放射性物質が飛んでいるときに飲まないという意味がないものだというのは、どの段階だったか記憶はないですが、もっと早い段階でそういうものだというレクチャーを受けていて、理屈も聞いてそうなんだろうなと思っていましたので、少なくともこのときにヨウ素剤の話という意識はないですね。

避難区域の話は、23日ですから実測が大分出てきていて、これは福山さんの方が詳しいと思うんですが、そろそろ飯館村の説得に入っているのではないですか。

○質問者 まだです。

○枝野前官房長官 それはまだ入ってない。

○質問者 そのときは入ってないですね。

○質問者 入ってない。

○枝野前官房長官 そこで入らなければとか、そんなぐらいですね。とにかくある段階で飯館村を説得しないといけないんだけど、その当時は地元が何で逃げなければいけないんだみたいな感覚だったので、むしろ逃げたくないみたいな感覚だったので、ちゃんと説明しないと納得してもらえないみたいなことの方が、むしろ問題意識でしたから。

○質問者 わかりました。

そうしますと、23日の逆算の結果については、その後、2時半に総理のところに入って、総理の判断を仰ぐということになるんですけども、なぜ総理のところに入ったか、何の判断を仰ごうとしたのか。

○枝野前官房長官 そもそも私は入っていますか。

○質問者 入られています。

○枝野前官房長官 入っている。

○質問者 入ったところ、福山さんが呼ばれたようなんですが、小佐古さんも一緒に入られまして、小佐古さんと、小佐古さんと一緒に活動されていた空本議員もいらっちゃって、そこで班目さんと小佐古さんとの間で、ヨウ素剤の服用についていろいろ議論になってしまって、話の收拾がつかなくなったんで、もう一回仕切り直してちょうだいということで部屋を出たと。

○枝野前官房長官 私はいましたか。記憶がないですね。

○質問者 そうですか。

○枝野前官房長官 記憶がないというのは印象に残ってないんですね。

逆に言えば、北西部の長期被曝問題はちゃんと地元で理解して、順次出さなければいけないという感覚は持っていたのではないのか。今ごろ何を言っているんだみたいな感覚なのかな。

○質問者 もう少し前からモニタリングの結果として、データの的には16日からポイント32というところの線量が結構高いということがわかってきて、20日ぐらいまでにかけて避

【取扱い厳重注意】

難をどうしようかという議論はして、でも、線量がちょっと下がり始めたので、このままでいいだろうという話の矢先に23日の。

○枝野前官房長官 23日の逆算結果を見て、特別その中身についての印象がないんですよ。つまり、逆算したら予想どおりの結果が出るんだねと。逆に言うと、基本的には実測値でいろいろ考えていた話が間違っていない、裏づけられた、むしろそういう意識なんです。

逆に言うと、発電所のサイトの状況は安定をしてきていますという状況の中で、新たにに逃げてくれという話をやるのは大変だけれども、これだと1年で100とかを超えるところが出てくるし大変だね、何とかしなければねという問題意識を既に持っていたのではないかな。

だからこそ、23日のシミュレーション結果に特別の驚きはなく、今さらヨウ素剤の話とかをしているんだったら、今ごろ何の話をしているのみたいな、どうやって理解してもらって順次避難してもらおうかという時期があったのは間違いないので。それが23日だったのかどうかは、ちょっと明確な記憶は正直に言ってないですが、逆に記憶が残っていないという事は、それぐらいしか考えられませんね。

○質問者 わかりました。

そうしますと、この2の避難関係のところに戻りまして、最初の○は飛ばしまして、モニタリングポイント32が、北西の30キロ外のポイントぐらいのところ、非常に高い線量が出たところなんです、これが先ほどから話に出ましたように、3月16日以降からちょっと高い数字が出ていた。

これについては、線量がこれからも高くなるのかどうかとか、それだったら避難しなくてはいけないのかとか、検討しなければいけないという話は早い段階からあったということでしょうか。

○枝野前官房長官 それは当初からありました。まず、まさに一点だけで、とにかくこの辺が高そうなんだから、この辺のモニタリングを強化しろというのがスタート。

最初の説明は一種のホットポイントみたいな説明だったので、そうはいつでも、その周辺のところはちゃんと調べないと危ないのではないかという話をした記憶は、明確にあります。

○質問者 後ろに時系列があるんですが、時系列を見ていただきますと、3月29日のところに、原子力安全委員会がポイント32周辺の集積線量について、既に10ミリシーベルトを超えているところは、できるだけ屋内に滞在することを推奨する旨を官房長官に説明した。

官房長官が保安院に対して、飯館村のある地区と浪江のある地区に対して、30キロ圏外であっても無用の被曝を避ける観点から、できるだけ屋内退避を推奨する旨を町村に連絡するようという内容の指示が出ているんですが、こういったことは御記憶の中にありますでしょうか。

○枝野前官房長官 明確な記憶ではないですが、まさに順次だんだんと線量のモニタリン

【取扱い厳重注意】

グデータと、23日のシミュレーションを含めて。それから、福島大か何かシミュレーションをやっているんですね。

○質問者 福島大ですか。

○枝野前官房長官 福島大か福島医大か何かシミュレーションをやっている、それを福島県庁と現地本部が持っているのに官邸に報告がなくて、それも怒ったんですよ。多分それの方が23日のSPEEDIよりも進化していて、年間積算線量の予測か何かまで含めて出ている、こんなものを福島県も持っているんだみたいな話をして、とにかく順次出ていってもらうようにしていかなければいけないねという話は、31日から議論を開始したというのが、どういう意味でこの期間の開始なのかなんですが、そんなに遅かったかな。もうちょっと早い段階から順次。

○質問者 関係省庁を集めて、議事メモがある。

○枝野前官房長官 関係省庁を集めてね。だとすると、私とか福山さんとの間、あるいは危機管理監とかとの間ではもうちょっと前からやっています。

○質問者 わかりました。そうでないと、ちょっと話が流れないなとは思ってはいたんです。

そうしますと、この29日なんですけれども、実はなぜかなとわからないことが一つありまして、ペーパーは3月29日付の官房長官から以下の指示があったということで、今の話が載っているんです。

疑問は何かといいますと、大臣官房総務課とありますが、これは経産省の大臣官房総務課で、あて先が原子力災害対策本部、ERCとあるんですけれども、実質的には保安院でして、ただ、中身は屋内退避、屋内に滞在するということでして、中身は本来であれば原災法の指示的な内容になってくるものですから、これがなぜ官房長官から保安院あての指示なのか。

○枝野前官房長官 しかも、経産大臣官房総務課。

○質問者 経由でですね。経産と保安院、実質的に重なっているということなのか。

○枝野前官房長官 ぐるっと同じ情報を回しているみたいな話ですね。

浪江の津島は浪江の津島として明確な印象はあるんですが、一貫して飯館村についてどうするかという議論をしていたんですね。つまり飯館村のどこかだけという議論は、基本的にはしてないんですね。そうはいても、官房長官から指示があったという話では全く通ってなかったな。

○質問者 これが、計画的避難区域の議論につながっていく始まりかなという気がしております。

○枝野前官房長官 3月31日の各省を関連する議論の監視というのは、何をやっているのかわかりますか。

○質問者 まだ文部科学省は全体のモニタリングをやってなくて、30キロをちょっと超えた程度のところまでしかモニタリングをしていなかったものですから、もうちょっと幅を

【取扱い厳重注意】

広げてモニタリングをやることと、その結果を地図にプロットしてわかりやすくしろという指示が出たそうで、文科省が随時、毎日、日を追うごとに地図の更新をしていって、その線量の結果を見ながら、避難範囲の区域の決定というものを逐一やっていっているようなんです。

○枝野前官房長官 なるほど。こういう議論はどこかでしていますね。文科と保安院まで呼んで、官房長官室で大人数でやり始めたのがこの日ですね。この日なのか。もうちょっと前はやってないのかな。

これはアンダーラインかもしれない。相手の関係がある。[]が一度こっそり官邸に来たんですけれども、福山さんに会いに来たことにして私も会っているんです。これがいつだったかな。

○質問者 4月になってからではなかったですか。

○枝野前官房長官 これは4月かな。

○質問者 記録にあるのは4月に入ってからですね。

○枝野前官房長官 福山さんばちゃんとメモをとっている人だし、多分[]は表裏に来ているんですよ。

○質問者 3月29日に、同時に現地の意向を説明して、その結果が飯館村は避難であるという話があって、その後の話でしょうか。それとも事前に。

○枝野前官房長官 とにかく私は、避難指示を広げるとか広げないかを言える段階ではなかったし、あちらはとにかく広げないでくれというニュアンスの話を聞いて、とにかく地元とはできるだけ丁寧に意思疎通をしながらやりましょうねという話をしているんですよ。その時点では、会ってないことになっているんです。

それはある程度、飯館とかは逃がさないといけないみたいな話になっている段階なので、丁寧にやらなければいけないねということでやったんですけども、4月かもしれないな。

○質問者 ただ、先ほどの3月29日の指示も、同時に飯館と川俣にはちゃんと説明に行くようにという話をしてしますので、事前にそういう避難に対しては、抵抗するかもしれないという情報があったと考えないと変かなという気もするんです。

○枝野前官房長官 そうだと思います。

○質問者 あるいはピンポイントで屋内退避をお願いするわけですから、そこに説明に行けというのは当然のことかもしれないんですが、ちょっとその流れは。

○枝野前官房長官 多分この辺は福山さんの方が私よりも詳しくて、福山さんはかなりメモをとっているのではないかと思うんです。

○質問者 実は、3月30日はIAEAが現地を視察したときでして、避難すべきだという発表をされていまして、これというのは3月29日の。

○枝野前官房長官 それは30ですか。

○質問者 30なんです。翌日なんです。でも、こういうのは事前に情報が来るとも結構ありますので、もしかするとそれを把握されていたのか。関係ないですかね。

【取扱い厳重注意】

○枝野前官房長官 それは関係ないような気がするんです。自信がないな。

少なくとも、26日に酒井さんが50ミリに近づいているという話を聞いているとすれば、その段階以降は、いかに早く逃がすかという話をしていたのは間違いない。私は酒井さんは物すごく信用していましたから。

○質問者 わかりました。

地元の説得が大事な作業だという認識。

○枝野前官房長官 それはどこかが持っていたのか、正直もうちょっといろいろな時系列の詳細がわからないと自信がないな。

○質問者 わかりました。

いずれにしても、線量が高いということは、結構早い段階から情報として入っていたことは間違いないですね。

○枝野前官房長官 はい。

逆に言うと、今の話の中で、私は30を超えている北西部のモニタリングが、そんなに遅い段階だということはいらついていたわけです。北西が危ないと言っていたから、ちゃんと調べろと言っていたのではないかという趣旨の問題意識を持っていたことがありましたから、先ほど文科省のモニタリングが、私からの指示を受けて30キロより遠いところもやり始めたという話は、何でちゃんとやってないんだみたいな問題意識があった記憶はありません。

○質問者 3月29日の自宅退避の話は、記者発表はされてないんですが、やはり飯館の方から。

○枝野前官房長官 地元でちゃんと説明した上でないとやらないでくれと。

○質問者 そういう配慮ですか。

○枝野前官房長官 はい。

○質問者 わかりました。

それから、長官の認識の中で、線量が高いのはここだけなんだろうとか、そういう問題意識はありましたでしょうか。ほかにもあるのではないかと。

○枝野前官房長官 ほかにあるのではないかとというのは、勿論ありました。ただ、ここはSPEEDIとの問題とかがいろいろ絡んでくるんですけども、早い段階から、なぜ北西のここだけ高いんだというのは高いモニタリングの出たところからずっと言っていて、最初のうちは谷合いか何かで、両サイドの雪が何かに積もって落ちたものが、全部集まるから高いんですみたいな説明を受けていて、本当かなとか思いながら違ったわけですけども、結局ブルームがいったときに雨だか何だかが落ちたからというのが正しいんです。谷合いだからそこだけが高いわけではなかったわけだけども、最初はそんなことを言った。本当にここだけなのか、ほかにもないのか、だからちゃんと調べろという問題意識は持っていました。

ただ、全体として順次ですから、いつの段階かと言われると難しいんですが、順次北の

【取扱い厳重注意】

海岸線とか南側とか、低いところも出てきたわけですね。近いのに低いところもだんだん出てきたので、それと23日のシミュレーション結果が合っているねという話で、やはり北西が問題だという話ではありました。

○質問者 そうすると、遠くても、30キロを超えていても高いところはあるし、逆に近くても低いところがあって、避難区域はもう一度ちゃんと整理しないといけないという問題意識になっていた。

○枝野前官房長官 少なくとも23日以降は、そういう問題意識を持っていました。

○質問者 実質的には、31日より前から始まっていたのかもしれませんが、関係省庁を集めて、後に決まっていく計画的避難区域等について検討されることになるんですが、そういう流れの中で。

○枝野前官房長官 そういう流れの中です。

○質問者 そういう問題意識の中で始まったと理解してよろしいでしょうか。

○枝野前官房長官 はい。

○質問者 今、残っている資料では、飯館村等に対する調整というのが、4月11日にコンセプトを発表しているのですが、その発表の前の4月9日に、地元の情勢を踏まえて地元に行こうということになって、4月10日に松下副大臣、福山副長官、細野補佐官が地元に行って説明しましたという記録は残っているんですけども、それより以前に内々で飯館辺りとは話をしているのではないですか。

○枝野前官房長官 しています。

こっちは出ても構わないんだけど、XXXXXXXXXXこれはアンダーラインで。

それは官邸だったんですか。私は福山副長官室で会っています。わざわざそっちに行っただんです。私も会っています。私が1回会っているぐらいだから、もしかしたら福山さんは1回ではなくて複数回会っているのではないかな。

○質問者 先ほどのSPEEDIのところでは放出源情報はなくてもできるだろうと、至極当然のことをおっしゃっているわけですが、文科省の担当の部署すらそういうことを考えないと、いかに当事者能力がないかと思えるんですが、何でそんなことになっていると思われませんか。ほかの閣僚の方からも、文科省はどうだという話が聞こえる。

○枝野前官房長官 本当にこれも、今の立場だとアンダーライン情報かもしれないんですが、保安院と安全委員会は能力の問題だと思います。文科省については経産大臣の立場になったから言っているわけではないけれども、あの当時から、文科省は何かを隠したりごまかしたり、小さく見せようとしているのではないかと、何日目ぐらいからと言われるとなかなか難しいんですが、私たちは当時から不信感を持っていました。

そうは言っても、保安院とか安全委員会は、確かに能力には問題があったけれども、隠す、ごまかすことを意図的にやっているとは余り思わなかったし、今でもそうだし、3.11以降についてはそうだと思うんですが、文科省については正直に言って不信があります。

【取扱い嚴重注意】

○質問者 それは3.11以降、その前からの話ですか。

○枝野前官房長官 勿論前からの話。そこは正直に言って不信感があって、そんな話は別に数学に詳しくなくてもだれかが気づくだろうと。だから、多分だれかが気づいていると思うんだけどもみたいなことを言ったと思います。

○質問者 先ほどちょっと飛ばしました、2の避難関係で2つ目の○なんですけど、3月25日に20キロ～30キロの屋内退避区域で、これはオープンにされてやっているんですけども、これのいきさつとといいますか、なぜこのときにこのタイミングでこれをやったかというの。これはもしかして、先ほどの流れとは違うのではないかと。

○枝野前官房長官 先ほどの流れとは別の流れです。つまり、ここは本当に私もじくじたる思いなんですけど、屋内退避を指示したら、屋内退避をするだけで外から物資が入ってこなくなりました。

それから屋内退避は、屋内退避をしながら、病院とか高齢者から順次逃がしていくことを屋内退避の時点から考えて、若干ではあっても危機管理監以下のところではやっていると思うんです。

一方で、自主避難がどんどん進んでいってしまった。つまり我々が先に逃がしたい人たちではなくて、逃げられる人から逃げてしまって、なおかつ、外からの物資も入ってこない状況の中にあっては、外からものを入れるのと同時に、もうここまで来てしまったら出られる人は出してもらわないと、物資を運び込むとか生活インフラの観点からちょっと持ちこたえられない、そっちですね。

だから、自主的にどんどん逃げていくわ、物は外から入らないわ、何か解除はなかなか難しいわという状況の中で、正直に言ってそのロジの点で一番困って、逆に言ったら出たいけれども、出なくていいのかどうしようかと迷っている人には出してもらった方が、ほかの対応がしやすくなる。むしろ大きかったのはロジの観点です。

○質問者 ここは何というか、流通のこと、ものが入ってこなくて生活が困難になっているということが全面的理由になっていると理解してしまっていて、勿論もともと線量がそんなに高い地域ではないのでそういう説明になってくると思うんですが、これは特定の地域が念頭にあった話でしょうか。

○枝野前官房長官 何か所か、むしろ出ると言ってくれというオファーがあったような記憶があります。

○質問者 南相馬ですね。

○枝野前官房長官 市としてもそれを促して出すから、国として出ると言ってくれみたいなニュアンスの話はありました。ただ、それだけが決め手ではないです。全体の構造として、今の状態をキープするのは持ちこたえられない。正直に言って、部分的に解除したかったんです。北西は逃げろにして、ほかは解除するということを考えたんですけども、やはり解除が本当に難しいと言われて、むしろ出てもらおうか。でないと生活がもたない。そっちの中の一つの要素として、確かに南相馬と言われれば南相場だったような気がしま

【取扱い厳重注意】

す。むしろ自主的に出ると言ってくれという話が地元からもあった。

○質問者 自主的に出ると言ってくれというのはなかなかわかりにくいんですけども、地元の自治体がそういうふうと言ってくれというのはどういう理由。

○枝野前官房長官 むしろ避難区域にしてくれだったと思います。少なくとも国が自主的にでも出ると言ってくれば、まさに将来的な補償とか行政的な負担とかも、国が持ってくれるでしょうと。別にそんなことを言わなくても、どうせ持つんですからみたいな話をしたんですが、そうはいつでも国から背中を押されたからやるんですでないと、将来の賠償とか、行政でかかった費用とかが心配だという不安。特にあのころは、まだ南相馬市長と信頼関係ができていませんから、おっしゃることはもっともだと思います。

○質問者 ネットになっているのは、やはり解除ができないというところだったということですね。

○枝野前官房長官 余り自分で検証していませんから、皆さん側の立場の仕事があるんだと。本当に解除できなかったのかどうかというのは。一つ私自身もどこかでもう一回調べてやりたい。難しかったのは、まず間違いなかった。それは直感的におわかりいただけだと思いますけれども、原発の状況がよくなっているわけではないのに何で解除するんだと、社会的にももたないねと。かといって、強制的にどうというような悪化をしているわけではない。なかなかどうしたらいいんだろうと。

○質問者 南相馬の桜井市長とは何度かお会いになっているんですか。

○枝野前官房長官 はい。

○質問者 そういう席で、はっきり言えと。

○枝野前官房長官 直接会ったときというのは電話で話したりとか、私が直接ではないですけども、あの人はいい意味での電話魔なので、官邸中枢のいろいろな人に電話をかけてきていて、そういったところから。むしろ避難しろと言ってくれみたいな声は、南相馬だけではないと思います。

○質問者 浪江町はいかがだったんですか。

○枝野前官房長官 南相馬は市長の個性が強いので印象にも残りやすいんですけども、南相馬だけでなく、どっちかという途中から早く避難の指示をしてもらって、ちゃんと国が逃げた人の責任を負うんだからという態度を示してくれというオファーが複数あったのは間違いなし、それはもっともだと思います。

だから、逃げてくれと、線量も低いのが大分わかかっていて、逃げなくてもいいところを逃げてくれと地元からのオファーがあり、早く逃がしたい飯館からは、何でいてはいけないんだと言われて、この逆方向の話がその4月の上旬ぐらいの一つの課題でした。

○質問者 次に、2枚目の広報関係。

○質問者 SPEEDI で1点だけ。

SPEEDI の公表の話でございまして、4月25日に統合記者会見の第1回目が開かれまして、細野補佐官からSPEEDIを公表しますと。それは官房長官の意向を受けて、今日決定に

【取扱い厳重注意】

至りましたという説明をされておりました、その4月25日の午前中に官房長官のところでSPEEDIの公表を含め、レクがあった記録があるんですけども、そういった場ですべて出すようにとか、公表するようにという指示をされた。

○枝野前官房長官 しています。こんなものがありましたと後になってから言ってきたから、何で出さなかった、さっさと出せと。役所は抵抗しましたけれどもね。

○質問者 そうですね。最初は非公表という紙で持っていったんですけども、すべて出す。それ以前に一度だけ、3月31日です。1か月ぐらい前の段階で、先ほどのSPEEDIをマップ化するという話が出ていて、その前日に福山副長官、細野補佐官の下で公表するかしないかという協議が行われておるんですが、翌31日の官房長官室での協議で公表すべきかどうかといった議論をされた御記憶はございませんか。

○枝野前官房長官 3月31日の段階で、例の逆算関連の話以外のものを2人は知っていたの。

○質問者 前日にはそういう協議がなされたんです。

○枝野前官房長官 公表したのはいつだっけ。

○質問者 4月25日。

○枝野前官房長官 何日前だったかまで正確な記憶はないですが、少なくとも3月16日以前の1単位当たりというデータの話については、それがあるといった話を認識した後の段階から出せと言っていましたし、出すまでの間、そんなに長い期間は空いてないはずですよ。そこはむしろ細野さん、福山さんに聞いてもらわないと。そこで何を話していたか。それは、25日に公表された資料ではない資料なのではないかな。

○質問者 実は3月の末から協議がずっと延びて、4月25日までかかってしまったという経緯があるようなんです。

○枝野前官房長官 それはないと思うんだけどもな。

○質問者 ちなみに、先ほど大量放出の話がありましたけれども、4月4日に、読売に気象庁がやっている拡散シミュレーションが。

○枝野前官房長官 そうです。先に隠しているのがばれたのは、気象庁なんです。

○質問者 これについては、翌日4月5日に官房長官が、これは公表すべきであったと話をされて公表になった。これは間違いないですね。

○枝野前官房長官 間違いないです。

○質問者 この気象庁のシミュレーションに関してなんですけれども、その後、4月14日に大量放出ではなくて、一定の仮定の下でのシミュレーションをやってほしいという依頼をするかもしれないという話がIAEAから来て、それをどうするか。IAEAに返すのは当然としても、国民に出すかどうかという議論があったようなんですけども、これについてはお聞きになっている。

○枝野前官房長官 これも結果的に出せと言っていないんですか。

○質問者 そういうふうに聞いております。

【取扱い厳重注意】

○枝野前官房長官 基本的に、これは出していいんでしょうかと来たのは全部出せと言っています。瞬間的に出せと言っています。

○質問者 わかりました。

ここにちょっと伏在している問題で、4月25日に問題になる SPEEDI も同じなんですけれども、一定の仮定をしたものを、実際の数字ではなくて仮定ですから、幾ら入れてもいいわけなんです、そういう数字を入れたものについて公表することは、誤解のおそれとかもあるわけです。そこら辺についてはどんなふうに考えられていたかとか、指示したか。

○枝野前官房長官 誤解のおそれがあっても、シミュレーションしてしまったものは出すしかないでしょうと思っていました。だから、本来どうすべきかという、マスコミを含めて自動的に流れるようにしておいて、マスコミに判断させるしかないでしょう。政府が出す出さないの判断をするという話だったら、こういう御時世ですから、全部出せになるに決まっています。そうでなかったら政治的にもたないです。

○質問者 長官がそのときに、これはちゃんと誤解がないように説明をつけて出さないと指示をされているようなんです。

○枝野前官房長官 出せませんみたいなことを言っているから、そんなことを言っても、出さなかったことが後で誤解されるからだめだと。誤解されないように説明をつけて出すしかないんだと。シミュレーションをしてしまって公文書があるんだから、公文書管理法も施行されているんだから捨てるわけにはいかないでしょう。いずれ出てくるんだよと言ったかどうかはわかりませんが、少なくともそういう問題意識で、やってしまったものは全部出すで当たり前ではないか。ここは、私は一貫しています。

○質問者 わかりました。結局要請は来なかったようです。

先ほどの4月25日の全部公表の話になる前に、一度政府が SPEEDI データを隠しているということ、ある雑誌に書かれたことがあるようでして、そこからまた公表の話がぱっと盛り上がり、大量放出は公開とか、一定のシミュレーションをしたものについては数値が正確なものは出すとか、そういう区分分けをしたものが上がってきたようなんですけれども、やはりそのときも同じ考えで注意されたと。

○枝野前官房長官 気象庁のときから一貫しています。気象庁も最初は出したくない、こんなものがありますが、こんな誤解を受けますとかと持ってきたけれども、ドイツか何かに送って出ているんだらう、何を言っているんだと。そこは一貫しています。

○質問者 では、2枚目の方にまいりまして、今、話したものに通ずるんですが、広報に関して、長官が基本的なスタンスとして決めていたところを改めて。

○枝野前官房長官 ゆっくり話す、落ち着いて話す。明快に、わからないならわからない、わかることはわかる。それをできるだけクリアに話す。これぐらいですね。

○質問者 その記者会見のみならず、情報の公開といいますか、開示といいますか、それに当たってもいろいろ指示をされているようですが、それはできる限り出す。

○枝野前官房長官 できる限りというか、とにかく私はもともと情報公開法をつくるとき

【取扱い厳重注意】

からずっとやってきましたし、とにかくこんなときに隠してはだめだと。データは全部出せということの認識はずっと一貫しています。それだけに、若干いろいろなところで言われていることについては、正直に言って不本意です。

○質問者 わかりました。

次の○に移って各論的などところに入っていきたいんですが、保安院記者会見というのは3月12日に保安院が午前と午後、特に午後の方は明確に言っているんですが、中村審議官が、炉心溶融がかなり進んでいるという趣旨のことを発言されております。

いろいろヒアリングしますと、官邸の中に、官邸も聞いてないことをあんな形で発表するのはどうかという異論が噴出したと聞いておるんですが、これについて当時の長官の認識として、あるいはごらんになっていたかどうかとか、見てどう思ったとか、こういう指示を出したとか、そういうものがございましたら。

○枝野前官房長官 意外と早い段階から、中村審議官問題はマスコミとかで取り上げられているので、その段階から意識しているんですが、その時点で、その会見を見ていたかどうか自体の記憶がないです。

中村審議官がだれなのかと、経産大臣としては別件の仕事で、この人が中村審議官なんだというのを初めて知りました。多分12日の段階でもうそうだったと思うんですが、非常に俗っぽい言い方でこういう言い方をしていたんですけども、大臣室で秘書官とか福山副長官とかには、とにかく東電も保安院も日本語をしゃべれる者を使えよというのは、何度も言っていました。勿論会見を落ち着いて見ている時間はないわけですが、NHKはずっとつけっぱなしですから、ぼっとしているとき、あるいは御飯を食べながら見ている、ちゃんと日本語をしゃべれる者にしろよというのは繰り返し言っていました。勿論意味としては、専門家でない人間でもわかるように論理立てて説明をしろと。

もう一つは、何で私の知らないことがほかのところで発表されるんだと。こういうロジでいいのかという話は3月12日の前からその後まで、ずっと言っています。繰り返し言っています。

○質問者 この炉心溶融に関しての記憶というのは、特にこういう特定の。

○枝野前官房長官 それはないです。

○質問者 全般的に、そういう情報の入ってこないことに対する問題意識というのは。

○枝野前官房長官 問題意識は勿論ありました。

○質問者 それは言っていたということ。

○枝野前官房長官 多分見ていたとしても、私自身も炉心溶融している可能性もあると。だけれども、どこまでいっているのかがわからないことにいらついていたわけです。もう溶けているかもしれないけれども、どの程度溶けているのかはわからない。もし見ていたとすれば、保安院が炉心溶融していると思うみたいなことを言っていたんだとしたら、ちょっとそのデータを持ってこい、どういう根拠なのか持ってこいと、そのときは炉心がどうなっているのかがわからなくて困っていたわけですから、むしろそっちにいきますね。

【取扱い厳重注意】

もしそうだったら、どういうデータに基づいていたのかを持ってこいと言っているはずだと、今、思うと思うので、それをしていないということは、炉心溶融をしていると思われるみたいなことをおっしゃっていたこと自体には、少なくとも反応してないんですね。

だから、あったとしても、そうだったら早く言ってよという程度で、私もこの時点では、炉心溶融している可能性がかなり高いと思っていたと思いますから。

○質問者 わかりました。あとはデータをということですね。

次の○の3つ目のボツは、1号機が爆発したときに、東電が官邸に届いてない写真を公表したことについてということで、これは御記憶があるかと思うんです。

○枝野前官房長官 ちょっと時間が経ってからですね。

○質問者 そうです。6時の記者会見をやられた後でしょうか。どうも写真があるらしい、勝手に公表しているらしいと。

○枝野前官房長官 そっちの方が明確に認識があって、明確に怒った記憶があります。

○質問者 これはどんな流れだったんでしょうか。

○枝野前官房長官 これこそ報道で見たのではないかな。秘書官かだれかが報道で、後から思うと水素爆発である爆発で崩れているのを、東電が発表していますみたいな話の報告がどこからあったか、たまたま自分でテレビを見ていたら流れていたかどっちなかで、あの写真はあるのと言ったら来てないと言うから、何だそれという話で。これは確かに明確に記憶があります。

○質問者 この写真はどうなっているんだということについては、貞森秘書官に指示された。

○枝野前官房長官 私は貞森さんに直接指示してないですよ。

○質問者 違うんですか。

○枝野前官房長官 総理秘書官ですから指揮権がないです。

○質問者 総理秘書官ですからね。

○枝野前官房長官 これもアンダーラインですけれども、総理秘書官が私の部屋に飛び込んで、総理を説得してくださいと頼まれることは時々ありましたけれども、私が総理秘書官に指示することはないですね。

だれにということではなく、東電いいかげんにしろ、ちゃんとこっちにも流させなければだめではないかということを書いて、たまたまそこにいた経産関係者が貞森さんだけだったから、自分が受けたと思ったことはあり得るかもしれないです。

○質問者 中村秘書官も同じような指示を受けたということ。

○枝野前官房長官 普通、指示するのは中村さんですよ。

○質問者 そうですね。

その報告はどちらかから受けましたか。

○枝野前官房長官 報告というのは。

○質問者 つまり、どうしてこんな写真が出たのかということ。

【取扱い厳重注意】

○枝野前官房長官 この間には、東電に対しては完全に不信感の塊ですから、ちゃんと政府に対して報告をしないで、ものを隠す体質だと思っていましたからさもありなんという感じで、どこにどう報告しなければならないのか、物事の優先順位が決められない人たちだということとはよくわかっていましたので、なぜそんなことになったのかではなくて、こんなことをやらせるな、発表するには少なくとも先に、こっちに一言、同じ情報をもらえないと困るだろうということを言っただけです。

○質問者 それはどなたかに電話をされていますか。清水社長には。

○枝野前官房長官 この件だったかな。さすがに何かで怒って電話をしているんですよ。この件だったかもしれないですね。とにかくちゃんと政府に対して報告もしないで、勝手に物事を進めるなという話はしています。多分この話かもしれないです。

○質問者 わかりました。

そのほかに、恐らくその後だと思われるんですが、東電の方を総理執務室に残して、総理のいる前で、東電はこんな情報をちゃんと上げてこないんですよということを総理に報告して、総理からちょっとしかってもらったことはありますか。

○枝野前官房長官 あってもおかしくないですけども、記憶にないですね。

○質問者 これは12日の出来事ですが、13日に東電の社長が官邸に来られているんですけども、この件について謝罪という意味もあったのかなということですか。

○枝野前官房長官 社長が最初に官邸に来たのは13日ですか。それより前に来ていますか。

○質問者 13日の14時ですね。

○枝野前官房長官 初めてでしょう。だから、いろいろなものが重なっているんですよ。勿論ほかの危機管理対応が優先だけれども、普通官邸に詫びに来るでしょう。でも、全く来てないわけですよ。この件だけでなく、いろいろ積み重なっているんです。

○質問者 この件だけではなくていろいろですね。事故を起こしていること自体ですね。

○枝野前官房長官 そうです。とにかく政府を挙げてやってくれと頼みに来るもんでしょう。そういう意味では、物すごくいろいろなものが積み重なっているときです。その中で東電も、私が見会で、何も答えられなくて困っているのを見ているのではないかという思いもありましたから、こんなことがわかっていたら早く伝えるよというのが、非常に積み重なっていました。ようやくやばいと思って社長が来たのではないですか。

○質問者 今の3つ目のポツから一つ二つさかのぼりますが、3月12日の18時の記者会見の中身を見せていただくと、情報がない中でいろいろな質問が飛んできて、非常に答えに苦慮されているところがあるようなんですけども、このときに記者会見を何とかやったということについては、やはりやらざるを得ないということ。

○枝野前官房長官 遅かったぐらいだと思います。定例は4時ですから、本当は早くやらなければいけなかったんですけども、何とか情報がないかと、ある程度情報を持ってやりたいと思いながら、ずるずる6時までかかってしまった。という意味では、もっと早くやりたかったですね。反省としては、同じ手持ちなしだったら、もっと早くやるべきだ

【取扱い厳重注意】

ったと思っています。

○質問者 ここに爆発的事象と例を挙げさせていただきましたけれども、これも正確に。

○枝野前官房長官 もう既にこの4時間でお気付きのとおり、準備をしてメモをとったり、あらかじめ何をしゃべるか、メモに用意してというタイプではないので、後からこの言葉が注目されているんですが、何かを意識して言ったわけではないです。

とにかく何もわかってないから、手持ちも何もなしで行って、わかっていることをしゃべり始めて自然に出た言葉で、特に村の人たちはそんな言葉を使っていましたから、それがインプットされていたのかもしれないですね。

○質問者 あと、2つ目のポツはそれほど大きな話ではないんですが、格納容器が破損してないということについて報告を受けていると。その後、理由としてと思われるんですが、その後に線量が下がっていますということが、メインの理由だったということでしょうか。

○枝野前官房長官 そうですね。

○質問者 班目さんとか久木田さんとかにお聞きしますと、むしろ壊れ方が水素爆発っぽいんだということもおっしゃるんですけども、そういう話は。

○枝野前官房長官 その手の話もありました。

○質問者 わかりました。

次の○に行きまして、3号機の官房長官記者会見です。これは先ほども伺ったところですが、補充的に何か聞くとこはありますか。

○質問者 補充的に、3月14日の未明に3号機の圧力が上昇しまして、一時作業員を退避させて作業員の退避を解除している。解除している意味は、圧力が一時落ち着いているからと。その退避している時間が6時50分～7時半までの間で、そういったことを11時の段階で初めて言われていたんですが、そこに若干のタイムラグがあるので、どういった理由でタイムラグが起きているのかということ。

○枝野前官房長官 その間に会見はやってますか。

○質問者 ないですね。

○枝野前官房長官 ないですね。正確には何時かな。10時半かな、11時かな。基本的には午前中と夕方の定例会見がベースで、それ以外に何かやらなければならないことがたくさんあって、1日に6回もやっていたりするということがあったので、上がり続けてやばい状態が続いていたらやったかもしれないですが、下がっていればこの間に起こったことで報告すればいいということだったと思います。

○質問者 最後の○ですけれども、放射線の影響に関する評価的な発表というもので、長官の会見を見てもこれはすごく難しい発表だなと思うんですが、多分16日が初めてだと思うんですが、直ちに人体に影響を与えるような数値ではないという表現を使われているようです。

それ以前は、体には影響がない値ですか、直ちというような言い方をされてはいな

【取扱い嚴重注意】

くて、これは何かレクの際にこういう説明があったとか、そういうことなんでしょうか。
○枝野前官房長官 16日と18日は、何のことについて言っていますか。北西の高い線量かな。屋内退避の話だったかな。

○質問者 「20キロから外側の近い部分についてモニタリングを開始して、その具体的な中身については文部科学省から発表していただいているかと思う。詳細な具体的な評価は、保安院あるいは安全委員会から報告してもらいたいと思うが、本日、測定され、発表された中身については、直ちに人体に影響を及ぼす数値ではない」、これは恐らくその日に、文科省が浪江町の30キロぐらいの地点に330マイクロシーベルトが出たことを発表していきまして、それを指しているのかなと思われる部分です。夕方の記者会見です。

○枝野前官房長官 だれかに、直ちにという表現まで言われたわけではないと思います。ただ、先ほどもお話したとおり、この間は急性被曝を気にしていました。ある意味当然だと思います。

急性被曝ではなくて、累積の被曝での問題で初めて具体的に数字が出てきたのが北西部の高い線量のところ。それ以外のところは逃げています。

もうこの時点では私も相当詳しくなっていましたので、急性被曝では全然問題になる数字ではないけれども、相当高いから累積被曝では問題になるということは自分でわかっていましたから、そういった意味では、まさに急性被曝の問題はないということ。

ただし、長期的に累積している被曝についてのことについては、コメントできる状況ではない。これから急激に下がるのか、どれぐらい続くのかということについての評価はこの時点では全くゼロですから、ということが頭に入っていたのでこういう表現を使ったんです。

○質問者 東京新聞だったと思うんですけども、かなり時間が経ってから、長官の直ちという理解と保安院の理解は違って、長官はむしろ影響はないというふうに理解していた、保安院はあるというふうに理解していた。要するに、前提としてその答弁は保安院が書いているという書き方のような記事があって。

○枝野前官房長官 申し訳ないけれども、私は数字とかの話は別として、特に大事なところは役所がつくったメモをほとんど読んでないです。保安院が直ちという表現で持ってきて、それを読んだという認識は全くないです。

私の認識は、今、申し上げたとおり急性被曝について、リスクのある数字ではないけれども、そこに長期間いたら累積被曝量で問題になるのかならないのか、それはわからないということと言いたかったわけです。だから、たくさんモニタリングしろという話は同時並行で進んでいた時期だと思います。

○質問者 長官の理解としては急性被曝でない、累積被曝が問題とされるけれども、それを浴びたからといって全くないわけではないということが前提。

○枝野前官房長官 つまり、先のごことはわからない。直ちにということ、今から振り返って分析的に言えば、急性被曝が問題になる数字ではないですが、この線量のところに長

【取扱い嚴重注意】

くいて累積していた場合の影響については、今の段階ではわからないというのが当時の認識です。

○質問者 広報の在り方については、先ほどおっしゃったとおりでと思いますけれども、国民にいたずらに不安を与えると、あるいはパニックを起こさせてはいけないとか、そういうことを考えつつ、先ほどのスタンスの中でやられている場面は多くありましたか。あるいは、まずそういうことを考えておられたのか、おられてないのか。

○枝野前官房長官 極端なところでは、先ほど東電の全面撤退の話ですけれども、こんなところでも言っても意味がない話だし、どうせ事後的に検証される話だと思ったから、それはよけいなことを言わない。

それから、最悪の事態は何かと聞かれたときに、今、動いている原発について最悪の事態は何かと言われたら、答えは一緒なんです。そうでしょう。まさにその原発が一番悪い状況になったときにどうなるのかと言われれば、本当に最悪の事態というのは動いている原発もみんな一緒なわけで、最悪の事態ということで聞いていることの意味が、何を聞いているのかがわからないということもあって、最悪の事態については一種何も言わないというのはしました。そこはむしろ何を聞きたいのかがわからない。

逆に言ったら、その時点で次に予想される最悪の事態は想定していた。だけれども、行き着くところまで行ったらどうなるかと言ったら、津波で壊れてなくても日本じゅうの原発が一緒ですね。ということはこの記者さんたちは聞いているのということで、そこは意識しました。

でも、それ以外は、むしろ言わないことのパニックとかの方が大きいし、私は結果的に正しかったと思っているんですけれども、公表される中身よりもどういう姿勢とトーンで発信しているかの方がパニックとの関係では大事だと、私は地震が起こった瞬間から思っていたので、中身で何か言ってしまうとパニックになるのではないかということについては余りというか、ほとんど意識しなかった。

○質問者 そうですか。

先日、海外の専門家をお呼びして話したとき、一様にこういう事故時の広報の在り方としては、真実をなるべく早くきちんと伝えるということを書いていて、それは全く同じですね。

○枝野前官房長官 全くそのとおり。

○質問者 メディア的には必ずしも正確な理解ではないですけれども、例えばもっと早くメルトダウンがあったではないかとか、炉心溶融があったではないかと、東電はずっと後で発表していましたが、政府はもっと早く知っていたのではないかと、隠していたのではないかと、言っていますね。そういう点については、今、思いとしてはどんな思いを持たれていますか。

○枝野前官房長官 まず、前提として客観的にメルトダウンをしていたのではないかと、分析がもっと早くできなかったのか、あるいはどこかが早く知っていたのに我々に黙っ

【取扱い厳重注意】

ていたのではないかということは、是非皆さんに検証してもらいたいと思います。

ここは正直に言ってわかりません。ただ、例の中村さんの発言があって、翌日私も炉心溶融している可能性があると言っているんですが、むしろその後はしてない情報ばかりが入ってきているんです。データとしてこういうデータがあるからと説明されれば、こちらでもそれを前提にせざるを得ないです。

ですから、むしろ分析自体が正確で迅速だったのかどうかということが問題で、当然メルトダウンしているという分析が上がってくれば、ちゅうちょなく説明しています。

○質問者 東電の情報というのは、バイアスがかかった楽観的な情報が来ているのではないかという疑いを持っておられましたか。

○枝野前官房長官 ある段階、多分12日とか13日ぐらいから、少なくとも彼らの評価については、あてにしていまませんでした。ただ、さすがにこの局面で、データそのものでうそをつくことはできないだろう。だけれども、隠しているのはあるかもしれないなどは疑っていました。

それから、まさにメルトダウンしているかどうかというのは、結局データの分析なので、こいつらが上げてくるのは本当に正しいのかどうかという疑問は持ちながら、明確にしてないということも言い切らないにはしていたと思います。今、出ているデータからは、してないことを裏づけるデータが来ていますとか、できるだけ客観的に正確に言おうと意識していたのは、結果がどうだったのかは知りませんが、何か分析とかを遅らせているのではないか、ごまかしているのではないかという不安は持っていました。

○質問者 国際協力関係のところに入らせていただきたいんですが、この3つポツがありますけれども、質問したい趣旨は同じでありまして、アメリカがどういう目的といいますか、意図で一生懸命情報をとろうとしていたのか。

それに対して日本はどういう姿勢だったのか。こちらはどういう認識で、どういう姿勢だったのかということでありまして、13の昼と14の夜と、また15、16の昼ごろにルース大使が官房長官のところへ電話がしたいということで、実際に電話をされました。おおよその話はお聞きしているところなんですけど、もう一度確認と、17日の電話会談の趣旨と、日米協議に至る流れといいますか。

○枝野前官房長官

○質問者

○枝野前官房長官

それは多分向こうの思い込みと同時に、ここは広い意味で官房長官の職責になるのかも

【取扱い厳重注意】

しれないので反省しなければいけないのかもしれないんですが、実務レベルでの情報のやりとりは必ずしもスムーズにしていなかった。つまり、報道をされる情報についても報道等を通じてしか伝わってなかったような感じがします。

その意味で守秘義務が関わるのかはわからないけれども、最近、経産大臣として知ったのは、保安院の日米協力の関係の窓口になるべき人間は、実は地震のときにアメリカにいて慌てて帰ってきたので、最初の1日ぐらいは連絡がつかない関係だったということは最近聞きました。もしかすると、それは影響しているかもしれませんがという話は聞きました。

これは事務的というか、技術的というか、まさに専門家同士でやってもらわないと。保安院とエネルギー省なのか、向こうの安全何とか委員会なのかはわかりませんが、どうもそこがうまくいってなかったで、

だから、つまり事務的にも協議の場をとにかく丁寧にやらないとうまく意思疎通ができないということで、これは福山さんなんか頑張ってもらったので、官邸が持っている情報はこの程度なのかとわかってもらったと思うんです。自分では、その後のルースさんとの関係は悪くないと思っています。

○質問者 14日の夜のときに、

○枝野前官房長官 そうです。こちらとしては、ちゃんと保安院あるいは外務省を通じてでもちゃんと情報が行っているはずなのに、官邸に来て何の情報をとろうとしているんだと。逆に言うと、それからの経緯でこっちも不信感があって、正直に言ってそれこそ官邸に人を置いて、我が国の主権に基づく判断をコントロールしようとしているのかという思いがこっちにもありました。こっちは出しているつもりなのということだったので。

その情報を出すためには、別に官邸なんかにいる必要はなくて、保安院でちゃんととってもらえばいいという認識だったので、何のために官邸に常駐したいのか。まさに政治判断に影響を与えたいということなのかなと誤解をしました。

このときの反省は、当時の松本外務大臣が国際会議で海外へ行っているんですよ。そのときの臨時代理を慣習に従って私にしたんです。普通、官房長官は外務大臣が外遊するときの臨時代理なんです。ルースさんにしろ、スタインバーグにしろ、クッションが入らなくなってしまうんです。普通だったら外務大臣なりがワンクッション入ってくれるのが、全部受けなければならなくなった。多分問題は17日だったと思います。これはちょっとひどかったですね。こういうときは、官房長官が外務大臣の臨時代理をやってはいけませんね。小さなことですが、すごい教訓です。

○質問者 このときに松本さんがいらっしゃった。

○枝野前官房長官 多分17日の未明は外務大臣がいなくて、国務副長官からの電話、そん

【取扱い厳重注意】

なもののカウンターパートは外務副大臣だろうという話が、外務大臣がいない臨時代理が私なので、自分で受けざるを得なかった。

○質問者 今になって振り返って、なぜ当時はこんなに情報を欲しがっていたんだろうかと。

○枝野前官房長官 やはり情報がなかったんだと思います。

○質問者 一つには、独自の避難区域を定めなくてはいけないのではないかと。

○枝野前官房長官 それは逆に言うと情報がないので、あるいはないどころか隠しているのではないかと思いついて、情報をとって逃がさなければいけないと思ったのは、向こうの立場に立てば当然だと思います。だから、向こうがとろうとしていたことについては当然だと思っていますし、むしろコミュニケーションギャップはまさに反省点であり、教訓であって、アメリカに限らないですけれども、少なくともアメリカとの関係では、何かあったときでも信頼関係のある窓口同士で、これが政府の持っている全部の情報ですということをきちんと伝えるラインをつくっておかなければいけない。一応形式的にはあったのかもしれないけれども、少なくとも全然機能しなかったということだと思います。

○質問者 日米協議は3月22日から始まることになるんですが、このお膳立てと申しますか、実質的な話は細野大臣とか長島議員とかがニーズを聞いてきて、官邸の中の関係する伊藤危機管理監とか副長官とか、いろいろお膳立てされて、最後は官房長官の決裁を得てと聞いていますけれども、そういう流れでしょうか。

○枝野前官房長官 そうです。外務副大臣もやっていますから、基本的には福山さんがやってくれていたと私は認識しています。アメリカとの関係は、基本的には福山さんに任せていました。任せていたから、福山さんはルースから私のところにがらがら電話がかかってきたことを恐縮していたというのが当時の状況です。なので、その組み立ての話も福山さんに任せていまして、私は最後に決裁しただけです。これは福山さんの仕事です。だから、各省調整を含めて誤解を解いて枠組みを立てるのに頑張ってくれたと思います。

○質問者 福山さんと細野さんとの役割分担について、何か御指示をされたんですか。

○枝野前官房長官 場づくりは福山さんです。

○質問者 実際の会議の回しを。

○枝野前官房長官 回り始めてから、自然に細野さんになっていったんだと思う。

○質問者 一点だけお伺いしたいんですけれども、日米協議の開始経緯につきまして、日米協議の枠組みを準備していたところは、内閣官房で指示されたのか、あるいは福山副長官から更に細野補佐官や長島議員の方に落ちていったのか、どちらかというのがちょっとわからないところがありまして。

【取扱い厳重注意】

○枝野前官房長官 私は福山さんと相談をして福山さん頼むわという話で、福山さんは自分の仕事だと思っていたので、そこから先の詳細は当然報告されていると思いますが、任せているという感じです。

○質問者 わかりました。

○質問者 では、最後のその他。

1つ目は、3月25日に原子力委員会の近藤委員長が「不測事態シナリオ」というものを作成されておりまして、3月22日に総理執務室で、総理が近藤委員長に作成を依頼したと聞いているんですけれども、ここには同席されましたか。

○枝野前官房長官 この話は余り記憶がないですね。

○質問者 どういういきさつで、こういうものを作成依頼することになったのかということについては。

○枝野前官房長官 民間事故調に出ているとおり、特に14日～15日にかけてとかは、全面撤退したらどうなるのかということとは本当にぞっとしましたから、まさに最悪はいろいろな最悪があるわけですけれども、このままいったらどうなるんだというのは総理も物すごく意識していたので、いろいろな人に聞いていたということは知っていたと言うより、感じていました。行くところまで行ったらどうなるんだみたいなことをいろいろな人に聞いていたのは知っていますが、具体的に近藤さんに指示していたかどうかというのは、済みません。最近初めて近藤さんの顔と名前が一致したので、だれが近藤さんなのかわからない感じなので。

○質問者 3月25日の夕方ぐらいには細野大臣、当時の細野補佐官に提出されているようなんですが、当時はごらんになっていますか。

○枝野前官房長官 その後、紙が公表されていますから、それを見た記憶はないなという感じがそのときの印象なんです。ただ、話は、やはりあのときに行き着くところまで行っていたら大変なことになっていましたよみたいな話の説明は受けて、ただ、この時期だとそのシナリオは消えたねと。むしろどちらかという、先ほどの話のとおり飯館の話まで入っていたかどうかは別としても、中長期的影響の話をどうするんだと、本人も相当頭に来ていたので、そういうことにならなくてよかったねみたいなことで、一種スルーしています。

○質問者 このペーパーについては、さすがに細野さんとしても公表できなかったようですが、その相談とか、あるいは出した方がいいのではないとか、そういう話は。

○枝野前官房長官 私の記憶では、出すとか出さないとかという話以前にスルーしてしまったみたいな感じで、なるほどという話で聞いて、そういうシナリオに行かなくてよかったねみたいなことで、そのときはスルーしてしまっていたという記憶ですね。

○質問者 仮定の質問と言われてしまうかもしれませんが、ごらんになって、4号機の燃料プールが全部いかれてしまったらという前提で、東京まで避難しなければいけない場合もあるという内容になっているんですが、もしこの不測事態シナリオが自分のとこ

【取扱い厳重注意】

ろにあつて、これは公表するかどうかという立場にあつたとしたら。

○枝野前官房長官 公文書だったら公表しようとしたと思います。多分私が菅さんの立場だったら、公文書にならない形でどこかに、それこそ彼のお友達関係の専門家にシミュレーションさせれば、私的な文書で公文書でないんだから公開とかの問題にならないんですが、原子力委員長に依頼したら公的な仕事で公文書ですから、それが出てきたら公表する。しかも、その時点で公表しないという選択、事後公表という選択は、やはりないのではないかな。

○質問者 さすがに近藤委員長も、原子力安全委員会というクレジットにしないで出しましたと。

○枝野前官房長官 だから、それが公文書なのかどうか。でも、公文書なんでしょう。公文書だったら公開するしかないのではないの。

なおかつ、25日だったら、このままいってくればこうならないですがとクレジット付で言えますから、相談されれば出そうと言ったのではないですか。

○質問者 2つ目の方の○なんですが、事故発生後、安全委員会事務局だけではないんですが、内閣官房参与、あと広瀬さんについては内閣府参与なんですけれども、結構任命されているようですが、この理由といたしますか。

○枝野前官房長官 ほかの話と広瀬さんの話は質が全然違うと思います。広瀬さんについては、一種、私が主導しました。

これも本当に人のことを勝手に言つては申し訳ないんだけど、私の認識としては、保安院長と原安委の事務局長が全く機能しないということが早い段階でわかっていた。でも、この2人が機能しないとどうにもならない。だれかいないのかといったときに、OBで両方のことがわかっている、その時点からはマスコミ的にはこんなに言われてなかったけれども、村の人間だから過去のことについてはいろいろあるかもしれないとは思いつつも、仕事ができるという評判は、持ってきた人間以外のところにいろいろ当たってみてもそうだったので、現職の保安院長とか原安委の事務局長に対しても役所的には上だから、それなりに押さえが効く。とにかく従来の事務局長と保安院長に仕事をやらせていたら大変なことになるという危機感だったんです。

どこかの大学の先生にもなっていたりしたのを、無理をして来てもらいました。

菅さんが選んだ参与については、今になって思うと、官房長官としてはもっと強く定めるべきだったのかなと、今、思うと思わないではないですけども、これも誤解を恐れずに言えば、あのときの総理大臣に対する精神的なプレッシャーというのは大変なものだと思うから、精神安定になるだけでも意味があるのではないかという思いはありました。

○質問者 これは菅総理にお聞きすることなのかもしれませんが、菅総理としてはブレンというか、専門家からの確な情報が得られない、ノウハウというか、知識が得られないストレスといたしますか、フラストレーションがあつたんでしょうか。

○枝野前官房長官 それは物すごくあつたと思います。それは我々も思っていました。

【取扱い厳重注意】

それは菅さんに聞いてもらえばいいんですけども、菅さんは昔からイベント型の仕事の仕方なんです。

ここから先は全部アンダーラインなんですけど、普通、選挙というのは普段から後援会をつくって、その後援会を選挙のときにいかに回すかというのが普通に言われている選挙ではないですか。彼の選挙は違う。選挙のときに、イベントのように人を集めてきて、ある時期から投票日までの間ぐつと走って、選挙が終わったらまたねという感じが、少なくとも私が初めて菅さんと知り合った15年ぐらい前の菅直人選挙だった。

だから、何か大変なことがあったから、大変なことに対してできる者をかき集めてというのは、彼の仕事のスタイルとしては普通で、彼のやってきた従来からの仕事のスタイルだと私は思います。

実際にルーチンで仕事をしている人が機能してないんだから、それはそれでやってもらう。とはいっても、こっちも菅さんと一緒に、この中にいらっしゃる人は霞ヶ関と一種闘ってきた中では、菅さんみたいに全部敵に回してけんかをして回らないし、もったいないと思ったので、機能しない役人はうまく外しながら、機能する役人の力をうまく引き出してやるしかないねという思いだったから、その仕事は私以下がやるから、菅さんは菅さん型の仕事をやってくれというのが、私の一種の割り切りでしたね。

○質問者 5人ぐらい参与を選ばれているんですけども、実際にワークしたというか、役に立ったとか、そういう話は菅さんから聞いてないですか。

○枝野前官房長官 わかりません。一種の菅さんワールドでやってくれという世界で、結果的にそこで知恵を受けても指示をしたり判断するのは菅総理ですから、あくまでもアドバイザーにしかすぎないわけなので、菅さんが何か言ってきたことに対して、それは違うからこうしましょうと言ったりするとか、それでいきましょうと言ったりするところの仕事が、そのことで重荷になるとは思わなかったの、どうせ1対1なり私と福山さんと細野君とかで違うと思ったら説得するしかないわけだから一緒なので、別に重荷にはならないと思っていたので。ただ、外との関係ではよけいなことでしたけれども、役に立っていたかどうか自体は、菅さんワールドでやってもらおうと割り切っていました。

○質問者 小佐古さんもその一人になるんでしょうか。

○枝野前官房長官 だと思います。

○質問者 小佐古さんは各省庁に働きかけをしたり、あるいは福山さん、細野さんにいろいろ提言を持っていったりして、やってくれという話をされているんですけども、もし、小佐古さんに対する現段階での評価的なものがあれば教えていただければと思うんです。

○枝野前官房長官 学者さんとしてどれぐらい立派な人なのかは別として、組織として仕事をするタイプの人ではないと思います。私自身は、いずれにしても菅さん問題なんだから、菅さんが自分のアドバイザーに求めたんだから、彼のアドバイスをとるとかどらないとかは、菅さんの責任でやってもらおう話だということで、私は彼に限らず物すごく割り切って仕事をしていました。私のアドバイザーとしてはうまみがない。

【取扱い厳重注意】

○質問者 今、お聞きしていますと、例えば原子力災害が発生した場合に、原子力安全委員会なんかには、法律上、緊急助言組織とかがありますね。結局今回は機能してなかった。それは人の問題ですか。それとも、何かほかに要因があるんでしょうか。

○枝野前官房長官 人が一番大きいと思いますし、結論みたいなことを言って申し訳ないですけども、我々も野党時代は三条委員会をさんざん言ってきましたけれども、日本で三条委員会を緊急事態に使うような組織でやってはいけません。それは物すごく強く感じます。

申し訳ないですけども、アメリカみたいに学者と行政マンと民間の人が、ぐるぐる同じ人がいろいろなポジションをやっているならいいんですけども、日本の学者さんは基本的に学者しかやってない人たちで、組織をマネジメントするというトレーニングなんかはしてないわけで、組織をマネジメントするトレーニングをやってない人が危機管理をできるはずがないというのが原安委の問題だと思います。

○質問者 最後の○ですが、5月上旬にそれまでいろいろありました本部が整理されて、このときに内閣総務官室の原総務官がいろいろペーパーを準備されたそうですが、これは官房長官の御指示。

○枝野前官房長官 それは私の仕事です。

○質問者 そのときの問題意識といいますか。

○枝野前官房長官 これもアンダーラインが、野党と世論対策です。つまり、本部が多過ぎてわけがわからない、けしからんというのがあの当時のバッシングの一番のテーマだったので、とにかく本部の数を減らせと。減らさなければ政治的にまずいから。ただ、実態は前後で余り変わってなかったんです。本部という名前をやめて、違う名前に変えたみたいな。

○質問者 聞いておきますと、指揮命令系統を整理されたとか、あるいはできるだけ早く決断できるように、念のための根回し先というのをできるだけ削って、きちんと核になる省庁に限るという整理をされた。

○枝野前官房長官 そこはむしろ原さんの仕事ではないですか。

○質問者 なるほど。

○枝野前官房長官 そういうときでないやりにくいからということで。確かにこうなりますという説明を受けたときに、それはいいし、こっちも削っとけというのをやりましたけれども、もともとの出発点は本部が多過ぎてわけがわからんという世の中の批判にとりあえず応えなければならぬので、それは一種の指揮命令系統。この本部の下にこれがあって、でも、どっちも本部という名前を使っているから訳がわからないとか、本部という名前だと、閣僚が集まってぐだぐだ話しているのが本部だと誤解をされているから、一応閣僚を上に乗せておかないと、事務局、各省から集まらないから、本部と上に閣僚級もつけているだけで、実態はその下の事務局会議なんですよという話が実態に合うように整理をしたかったというのがきっかけです。

【取扱い厳重注意】

○質問者 官房長官から、各チームの負担が大きくなるようにしなさいという御指示もあったと。つまり、今までの負担を整理して、効率化しましょうという趣旨。

○枝野前官房長官 出発点はそうですから、そのときにはどうせやるんだから、できるだけ整理しようねということはいいました。

○質問者 流れの中での質問は以上です。

○質問者 少し全般的なことですけれども、こういう原子力エネルギーに依存するというのは、歴史的に石炭から重油、原子力と変わる。それは政治と企業、産業なり何なりと、流れの中で必然的に出てきたんでしょうけれども、安全という目で見たとときにこういう事態になってしまった。それはシステムづくりの歴史の中で、どこでどうおかしくなってしまったというか、あるいは抜けができてしまったのか、その辺りで、今回この事態に直面して、今後の在り方に関わって一番反省する点、その辺りについてお考えになっていること。

○枝野前官房長官 前段は、実は私は3.11まで原子力政策とは全く無縁だったし、あえて言えば近づこうとしてなかった。つまり、もともと私は原子力に消極的でしたので。かといって、大きな政治の構造として、3.11よりも前に原子力を縮小しようとか、やめようと言ってもなかなかリアリティーのある話ではない。少なくとも私は国会議員になって19年ですけれども、私が議員になったころから、それはもうでき上がっている構造だったので、ほとんど近づいてこなかったので、経緯自体がよくわからない。

今は逆に、今後の原子力政策を進める上でも過去のことを知らない方がいいと思っていて、過去のいきさつを関係なくどうするかを決めなければいけないというのが、今、経産大臣としての私の思いなので、あえて経緯の話を受けないようにしています。

ただ、間違いなく言えるのは、やはり安全神話が決定的に大きい。つまり安全神話は両面からあって、原発は安全だという前提に立ってあらゆることが組み立てられていた。

もう一つは、原発は安全だと言わなければならないので、実はここが危ないんだという情報があっても採用できなかった。両面において安全神話というのはだめで、もし原子力を使い続けるとすれば、危険だけれども使うという位置づけでなければだめだと思っていますので、これから危険だけれども再稼動しましょうと言いに行くわけです。

そうでないといけないと思います。危険だけれども使う。安全だとは言わないといけないでしょうけれども、絶対的な安全はあり得ないと言わなければいけない。

あとは原発そのものではないですけれども、危機管理ですね。一つは保安院も安全委員会も、やはり事故が起こらないことを前提にものを組み立てていたと言わざるを得ない。

当時の寺坂さんだったか、保安院長が文系だからと言い訳もしていました。これは世の中の評価はいろいろあるかもしれませんが、その後の、今の深野院長も文系ですが、彼は一生懸命勉強して、文系だと言い訳をしないで済むようにちゃんとやってくれていると思います。だから、文系だったことが問題ではなくて、文系だからという言い訳をするような人を保安院長にしていたことが問題だと思います。

【取扱い厳重注意】

あと結論的に、私は電力会社に任せるのは無理だと思います。少なくとも電力会社と国が共同して事故対策・対応に当たらないといけない。そういう問題意識だったら、東電にまで来ていたテレビ電話システムが、本当は保安院にも官邸にもつながってないといけない。それが最初からあっただけでも大分違ったのではないかと思いますね。

○質問者 せんだつての国際会議で、アメリカの大臣が原発は危険を伴うということを前提にして、安全に対して取り組まなければいかぬということを非常に強調されたんですね。今、おっしゃったように危険だけれども使うということが当たり前になっているのが欧米の認識だと思いますけれども、日本の国民性から言ったら、危険だったら使わない。一かゼロかになってしまう。

○枝野前官房長官 正直言って、今、経産大臣としては再稼働問題についての説明の仕方は非常に難しいし、ここは班目さんも、それにしても逃げている姿勢の言い方なんだけれども、言いたい気持ちはわかる。つまり安全だとは言えないという班目さんのこの間のストレステストに対する言い方は、その限りではわかる。だけれども、まさに一かゼロになってしまう傾向の強い国民性の中で、絶対安全とは絶対に言わないけれども、国民的な理解を得るにはどうしたらいいのかというのは、今、私の一番頭の痛い悩みです。本件とは関係ないので、そこの部分は線を引いておいていただけたらと思います。

○質問者 それから、防災対策というのは事故が起こったことを前提にして、どれぐらいのことをシミュレートして、前提にして初めてそこで避難対策というのが出るわけですが、それがほとんどないに等しかった。それが歴史的な政権の継続の中で、引継ぎということは全くなかったのではないかと思うんです。

例えば新潟県の柏崎で火事があってから、複合災害対策の訓練をやろうとしたら保安院がストップをかけたとか、そういう経過があるんですけども、そういうことがチェックされずにずっと継続されてしまう体質をどうしたらいいのかという大きな問題があります。

先ほどおっしゃったように、安全を前提にして事故はないんだということだから、避難訓練も。

○枝野前官房長官 そういうことだと思うんです。

政治システムや行政システムの本質的問題みたいな話で、その答えを模索をしながら、これだという感じにはならないのが正直なんです。

そういう意味では、公文書に書かれると情報公開なのかもしれません。それでいろいろなことが後から出てくるという話で、そういう意味では議事録をつくってなかったことについては、私も責任の一端はあるのかなと思っているので問題なんです。議事録はつくらなかったんですけども、これは全部公文書管理で、いずれ情報公開の可能性のある文書だからみたいなことは、だれに言ったかは記憶がないですけども、私は早い段階から言っていました。だから、捨てるなよ、捨てたら問題になるぞという話は言っていたので、危機管理センターに届いている文書とかは結構ちゃんと残っているはず。これは公文書だから、都合の悪いのを捨てたりするなよということを伊藤さんに言ったのか、だれに

【取扱い厳重注意】

言ったのか、言っていたつもりです。ただ、公文書管理法と情報公開法がまだ徹底してなくて、隠そうと思えば隠せるという空気が、まだ霞ヶ関にも永田町にもあるというのを早く変えることかなと思います。

私の感覚からすると、隠そうとしても隠しようがないんだから、途中で出てきたときの不信感よりもちゃんと公開する方が大事だから、基本的に上がってきたものは出せとやっていたつもりです。

これもアンダーラインにしてもらわないと誤解を招くかもしれませんけれども、と書いていたんです。でも、それでいろいろな行政文書はいずれ出るんだという意識が徹底されれば、大分変わるのではないかと思うんです。

○質問者 ちょっと際どい質問ですけども、アメリカなんかですと、例えば1986年にスペースシャトル・チャレンジャーの事故があって、大統領が6か月で報告書と提言をまとめるといってロジャース委員会ができて、そのときにNASAを根本的に変えてしまうと同時に、徹底的な人事の入れ替えをやったんですね。勿論NASAの長官なんかはすぐに首にしてしまうとかですね。

今回の経過を見ていると、安全委員会なり保安院なり、そういう政府のお目付け役の機関が何となくずるずる来て、院長も委員長もずっと言葉を変えながらうまく生き延びているみたいな不思議な現象が見られるんですが、何かこういうものは国民的に言うと、どうなっているんだろうという感じがあるんです。

○枝野前官房長官 保安院長は海江田さんのときに替えてくれていたのが、今、経産大臣になってすごく助かっています。しかも、後任の人選も正しかったのではないかと、今、思っていて見えています。今の深野院長はかなりしっかりと頑張ってくれていると思いますし、従来の延長線上でやってはだめなんだという意識で、保安院の中もかなり徹底してやってきているかなと。では、寺坂さんが退職金をもらって普通の辞め方をしたのはどうなのかという話は、日本的風土からすると、あそこで免職になって、退職金なしでできるかといったら、それよりも替えることの方が優先だったのかなと思います。

原子力安全委員会の方については、やはり三条委員会の身分保証の問題に行き着くんだと思います。替えたくても替えられません。

勿論政権が辞表を出せと迫れば、辞表を出させることはできたと思いますが、後任を国会同意人事で決められるかといったら、今はだれが出しても決められないです。この1年の間に後任を決められたかといったら、簡単ではなかったと。後任が決まらない状態で国会を同時にですから、2か月も3か月も、この局面で安全委員会がというのは、ちょっと政治的には考えられなかったと思います。

そうすると、三条委員会の独立性の裏返しとして、国会同意人事で首にできない仕組みで、こんな大事な仕事をさせておいていいのか。独立性も独立性で重要なのは間違いないので悩ましいなと思います。

【取扱い厳重注意】

○質問者 原子力規制庁に変わる前に、だれが規制庁の中心的なリーダーになったり、中堅管理職になったり、長官になったりとか、そうすると結局、今の保安院から横滑りするような形になるのではないのでしょうか。

○枝野前官房長官 恐らくそうなると思いますし、ここは少なくとも技術の部分のところの人間は、結局保安院から持ってこない限りは電力会社か重電メーカー以外にいるのかというと、いないですね。技術の具体的な細かいところがわかる人間というのは、結局村にしかない。では、村をマネジメントする人のところをどうやって持ってくるか。

あえて言いますけれども、細野君とは今度の規制庁の人事の話はまだしていませんが、村の人間で一番まともなというか、今回のことから教訓を受けているような人で、それなりのキャリアの人を持ってくるか、そうでなかったら今日の皆さんのお仲間かなと思います。検事とか警察とかでマネジメントしてもらおうか。正直、人がいないですね。ここは長期的にもいないんだと思います。

そうすると、せめてミッションがこれなんだということが大事で、従来のように保安院に行ったりエネ庁に行ったりと、同じ人間が両方を二枚看板でやっていることをやめることで、規制庁の人間はとにかく厳しく電力会社に当たることが私たちのミッションなんだという意識を持ってもらえるかどうかだと思います。

○質問者 今度、運輸安全委員会がこの4月から大組織改正と方法論の変更をやるんですが、そこで非常に注目をするのはミッションをつくっています。言わば憲法前文で、そこにはっきりとどういう意識でという内容で、恐らく安全規制庁の場合もそういうミッションのイメージが必要なのではないかと思います。

○枝野前官房長官 そうだと思います。

○質問者 今のお話ですと、組織は三条委員会が問題ですか。

○枝野前官房長官 ここは危機管理フェーズと平時とは違うのではないかという話は、確かにそのとおりなんですよ。だから、今度の規制庁だと、その規制庁の隣に一応三条なのかな。恐らく国会同意人事での、今の安全委員会みたいな組織をつくりませんが、あくまでも責任を持ってやるのは規制庁で、その規制庁がやっていることを外からチェックするという形なので、主体的に何かやるということよりも規制庁をチェックするという立場なので、これならば危機管理の責任も規制庁長官になるわけだし、規制庁長官の下に、専門家でリスク管理もできる、マネジメントもできる人間を使えばいいという構造で、平時は第三者機関がちゃんとチェックするなら一つのやり方だとは思いますが。

○質問者 わかりました。

○質問者 長時間、ありがとうございました。

○枝野前官房長官 ありがとうございました。

大変大部の作業で、御苦勞様でございます。